

# 第3回 吹田操車場跡地まちづくり促進協議会

平成19年4月25日

午後2時～午後4時

吹田商工会議所 大会議室

## 次 第

### 1. 開 会

会長挨拶

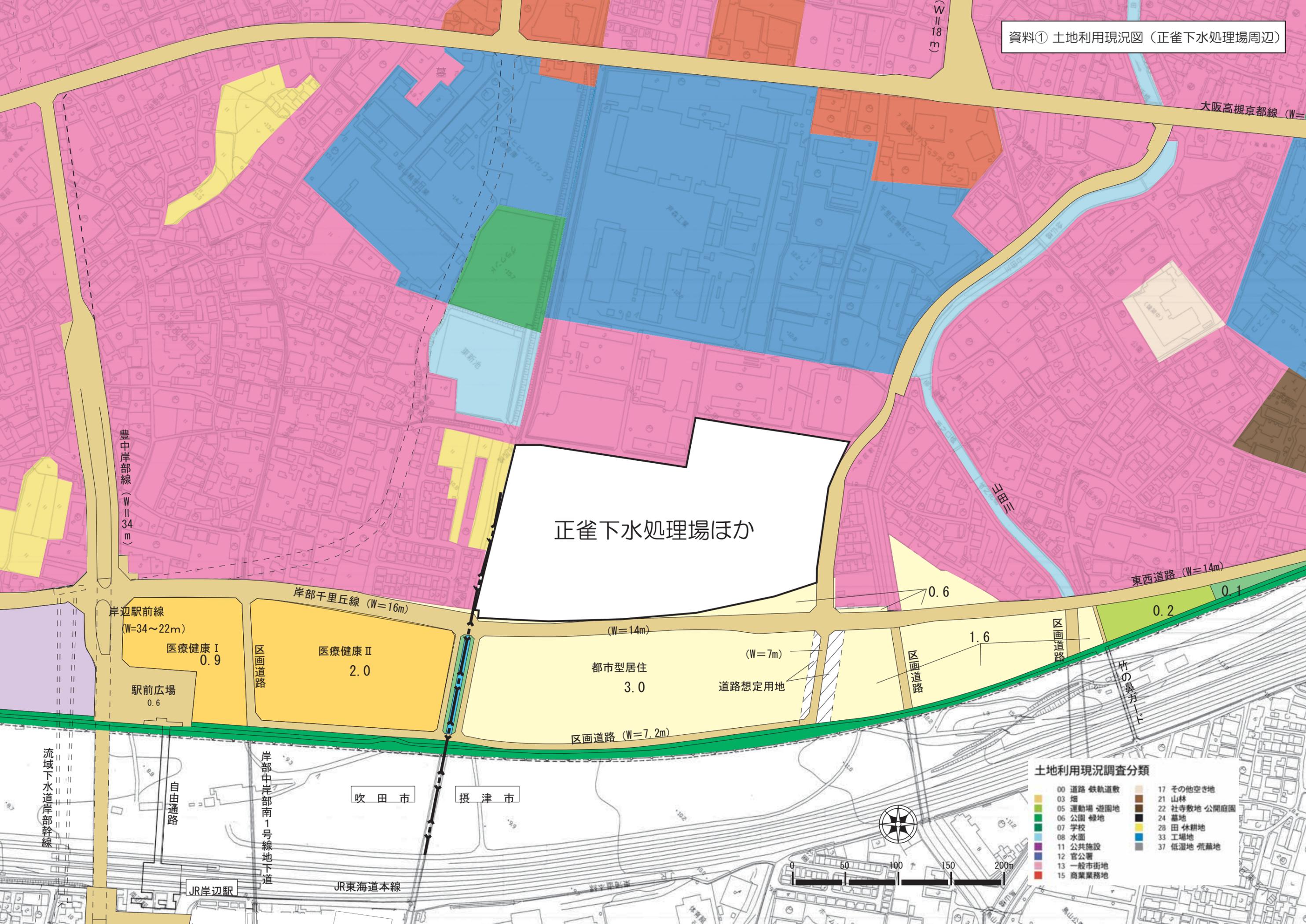
### 2. 案 件

- ・吹田操車場跡地まちづくり計画委員会設置要項の変更について
- ・第2回吹田操車場跡地まちづくり促進協議会以後の経過について
- ・吹田操車場跡地 まちづくり全体構想（素案）について
- ・正雀下水処理場の今後について（意見交換）  
将来的な土地利用のあり方について

### 3. その他

### 4. 閉 会

資料① 土地利用現況図（正雀下水処理場周辺）



正雀下水処理場ほか

土地利用現況調査分類

00 道路 鉄軌道敷	17 その他空き地
03 畑	21 山林
05 運動場 遊園地	22 社寺敷地 公開庭園
06 公園 緑地	24 墓地
07 学校	28 田 休耕地
08 水面	33 工場地
11 公共施設	37 低湿地 荒蕪地
12 官公署	
13 一般市街地	
15 商業業務地	



吹田市 摂津市

JR岸辺駅 JR東海道本線

流域下水道岸部幹線  
自由通路  
岸部中岸部南1号線地下道

岸辺駅前線 (W=34~22m)  
医療健康 I 0.9  
駅前広場 0.6

区画道路  
医療健康 II 2.0

都市型居住 3.0  
道路想定用地 (W=7m)  
区画道路 (W=7.2m)

東西道路 (W=14m)  
0.6  
0.2  
0.1

豊中岸部線 (W=34m)

岸部千里丘線 (W=16m)

大阪高槻京都線 (W=)

(W=18)

## 吹田操車場跡地 まちづくり全体構想（素案）

### 凡例

黒文字・・・当初の記述です。

紫文字・・・第 1 回計画委員会、促進協議会を踏まえての修正箇所を示しています。

青文字・・・第 2 回促進協議会を踏まえての修正箇所を示します。

赤文字・・・第 2 回計画委員会を踏まえての修正箇所を示しています。

平成 1 9 年 5 月

吹田操車場跡地まちづくり計画委員会

# 吹田操車場跡地 まちづくり全体構想

～緑と水につつまれた健康・教育創生拠点～

## <環境形成誘導方針>

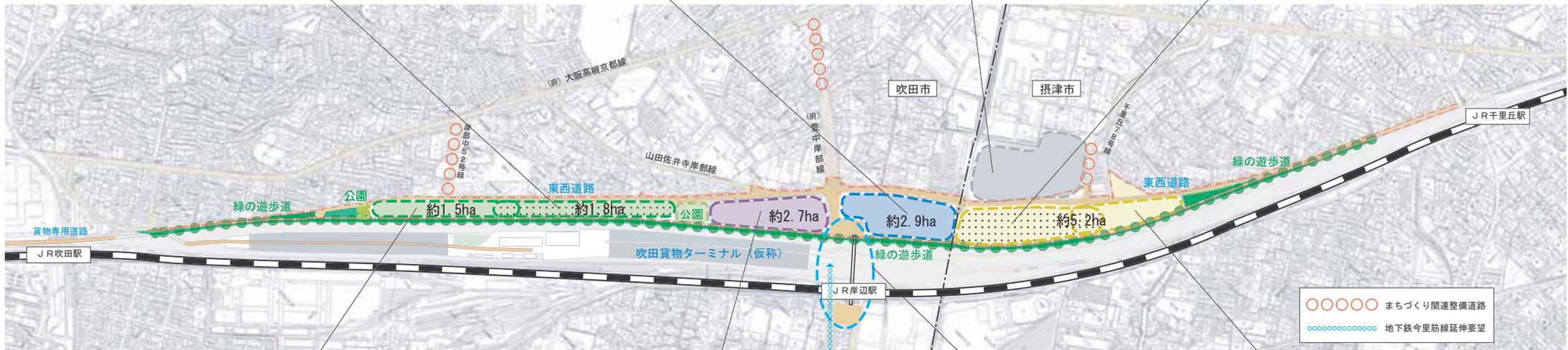
- ・緑の遊歩道及び公園、敷地内植栽による緑のネットワーク形成
- ・里山の再生等環境シンボルの形成
- ・環境教育と環境意識啓発の場の提供
- ・良好な環境と景観形成による都市イメージの向上
- ・駅前顔としての印象的景観の形成
- ・周辺市街地との調和に配慮した都市デザインの実現

**■緑のふれあい交流創生ゾーン(Ⅱ)**  
 緑を中心とした市民の生活交流空間  
 <導入機能誘導方針>  
 ・緑豊かな居住・生活支援施設の導入  
 ・緑とふれあうことのできる交流施設の導入

**■医療健康創生ゾーン**  
 市民の健康をサポートする中核的な拠点  
 <導入機能誘導方針>  
 ・疾病予防的な医療・健康増進施設の導入  
 ・総合的な医療サポート施設群の導入  
 ・緑豊かな居住・生活支援施設の導入

**□正雀下水処理場ほか**  
 ・当該用地内の下水道施設など今後のあり方について検討中である。当地区に隣接していることから、将来的な土地利用について吹田操車場跡地のまちづくりとの一体的な活用をはかる事が望ましい。

**■都市型居住ゾーン(Ⅱ)**  
 駅近接の利便性を活かした都市型居住空間  
 <導入機能誘導方針>  
 ・緑豊かな都市型居住施設の導入  
 ・育児・福祉などの生活支援施設の導入  
 ・暮らしを支える生活利便施設の導入



**○緑の遊歩道**  
 ・豊かでボリューム感のある緑の連続空間  
 ・楽しみながら距離を感じさせない健康増進空間  
 ・まちの持つコンセプトを周辺地域に発信する

**○JR岸辺駅前の整備**  
 ・まちの顔となる北駅前広場の整備  
 ・まちのイメージを表現する駅周辺部の景観形成  
 ・緑のネットワークの中心となる緑豊かな空間整備  
 ・JR岸辺駅の橋上化と南北自由通路の整備  
 ・南駅前広場の改修

**■緑のふれあい交流創生ゾーン(Ⅰ)**  
 新たに生み出すまとまった緑の空間  
 <導入機能誘導方針>  
 ・緑とふれあうことのできる交流施設の導入  
 (例えば、ギャラリー・体験施設・店舗など)

**■教育文化創生ゾーン**  
 だれでもいつでも学べる教育・研究の中核的な拠点  
 <導入機能誘導方針>  
 ・研究・研修施設、まちににぎわいをもたらす教育施設の導入  
 ・産学官フラス市民によるコラボレーションを支援する交流機能の導入  
 ・地域の交流や文化を育むコミュニティ施設、文化施設の導入

**■都市型居住ゾーン(Ⅰ)**  
 憩いと安らぎの生活交流空間  
 <導入機能誘導方針>  
 ・防災機能を有した公園の導入  
 ・市民の憩いの場となる交流施設の導入

はじめに

## 目次

### はじめに

章	<u>吹田操車場跡地及び周辺の歴史</u> . . . . .	1
章	<u>関連する上位計画</u> . . . . .	3
	<u>1. 都市計画や土地利用に関する計画</u>	
	<u>2. 自然環境に関する計画</u>	
章	<u>周辺地域の特性</u> . . . . .	23
	<u>1. 自然環境</u>	
	<u>2. 鉄道を中心とした交通アクセス</u>	
	<u>3. 都市機能の集積状況</u>	
	<u>4. 大規模都市開発プロジェクト(広域)</u>	
	<u>5. 都市整備課題と都市開発プロジェクト(周辺)</u>	
章	<u>まちづくりの基本方向</u> . . . . .	30
	<u>1. 社会経済環境への対応</u>	
	<u>2. 計画地の特性を活かしたまちづくり</u>	
	<u>3. 望まれる都市像</u>	
	<u>4. まちづくりの基本方針</u>	
章	<u>まちづくりの理念</u> . . . . .	38
章	<u>吹田操車場跡地まちづくり促進協議会での検討内容</u> . . . . .	41

## ・吹田操車場跡地及び周辺の歴史

### 古代～近世

吹田操車場跡地は、千里丘陵裾野に広がる平野部に位置し、古墳時代（5世紀前半から7世紀初頭）には北方の一带（片山、岸部から佐井寺、山田にかけて）で須恵器の生産が盛んであった。現在の紫金山公園内には吉志部古墳があり、この頃に造られたと考えられている。また、8世紀前半には、難波宮や平安京の造営に用いられた瓦の生産地であった。

跡地の西部には、大阪方面から茨木方面につながる亀岡街道があり、古くから交通の要衝であった。

中世から近世にかけては、大都市の大阪に近いこの地域は水田や畑が広がり、新鮮な野菜の供給地としての役割を果たしていた。江戸時代には、吉志部、七尾などの集落が点在し、

産土神としての吉志部神社がある。現在の吉志部神社の本殿は慶長15(1610)年の再建であり、国の重要文化財に指定されている。

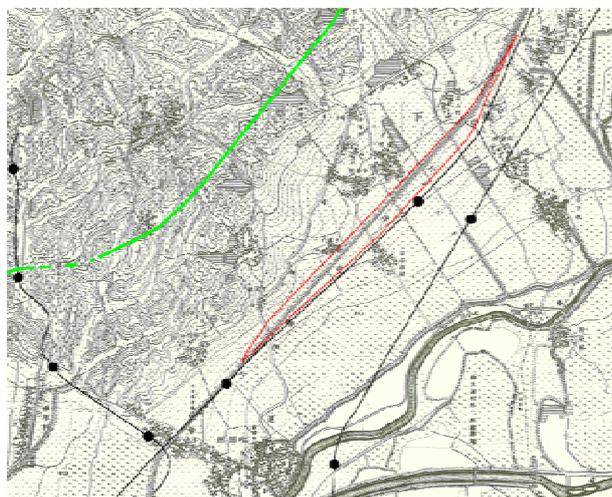


七尾瓦窯跡（岸部北）

### 近代

明治9年（1876年）大阪 - 向日町間の鉄道が開通、同年吹田駅も開業した。東海道本線は、明治22年に東京 - 神戸間が全通、明治24年（1891年）に有限会社大阪麥酒會社吹田村醸造所（現アサヒビール吹田工場）が建設された。

大正時代になると、第一次世界大戦の軍需等により急速に進む産業の近代化の中で貨物の輸送量が増大し、計画地が貨物操車場として整備されることとなった。大正8年（1919年）吹田貨物操車場の建設に着手し、大正12年（1923年）に操業を開始した。昭和時代になると、貨車量の増大による拡張工事が繰り返され、昭和18年（1943年）には、1日あたり8,000両の貨車取扱能力を有する東洋一の操車場となった。また、千里丘駅については昭和13年(1938年)、岸辺駅は、昭和22年(1947年)に開業している。



明治18年吹田村地形図



吹田操車場操業当時（大正12年）

## 現 代

戦後、大阪都市圏への人口集中が進む中、昭和 35 年（1960 年）には、大量の住宅供給を目的として千里ニュータウンの開発が始まり、その都市基盤施設として昭和 39 年（1964 年）に大阪府企業局により正雀下水処理場が計画地に隣接して整備された。当処理場の所在地は摂津市域であるが、昭和 48 年（1973 年）に吹田市に有償譲渡された。

昭和 59 年（1984 年）には、鉄道に代わる陸上輸送としてトラックによる輸送が進展したことに伴い、従来の操車を伴う貨車輸送からコンテナを利用した貨物輸送に変換されたことにより吹田操車場は廃止された。昭和 62 年（1987 年）には、旧国鉄が梅田貨物駅機能を廃止し、その機能を吹田操車場跡地に全面移転する計画を打ち出した。その後、大阪府、吹田・摂津両市、旧国鉄清算事業団（現鉄道建設・運輸施設整備支援機構）および JR 貨物との間で移転にともなう環境対策や貨物取扱量、まちづくり可能用地などについて協議・交渉を行った結果、平成 11 年（1999 年）1 月に梅田貨物駅の半分の機能を移転させることなどを盛り込んだ「梅田貨物駅の吹田操車場跡地への移転計画に関する基本協定書」を関係 5 者間で交わした。

この基本協定書に基づき、平成 11 年（1999 年）12 月から足掛け 7 年間に及ぶ環境影響評価の手続きが進められ、貨物駅建設に伴う周辺地域への万全の環境対策が約束されたことなどから、平成 18 年（2006 年）2 月 10 日に「吹田貨物ターミナル駅（仮称）建設事業に関する着手合意協定書」を関係 5 者間で交わした。

これにより、23.0ha に及ぶ用地における新たなまちの誕生に向けた取り組みが本格的に始動した。



現在の吹田操車場跡地

## ・関連する上位計画

### 1. 都市計画や土地利用に関する計画

#### (1) 都市計画や土地利用に関する上位計画における吹田操車場跡地の位置づけ

大阪府国土利用計画（第三次） 平成 13 年(2001 年)10 月決定  
主要な交通結節点や駅前地区等を中心として複合機能を備えた都市核の形成

吹田市第 3 次総合計画 基本構想  
平成 18 年(2006 年)3 月決定  
地域の新しい未来を切り開くまちづくりに向けて、市民、事業者の参画の下で協働により取り組む

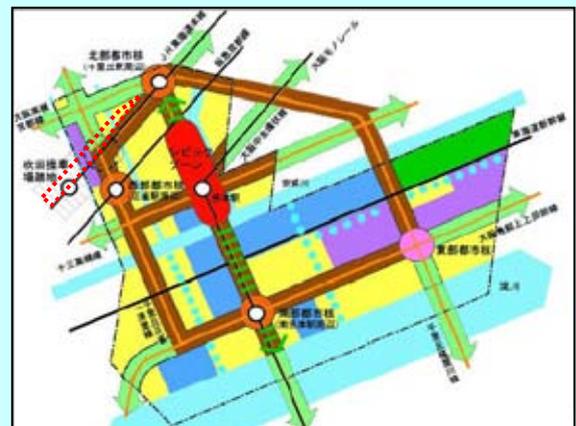
摂津市総合計画  
平成 7 年(1995 年)3 月決定  
スポーツ・レクリエーション施設など、市民ニーズを取り入れた広域的な利用を検討

北部大阪都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(都市計画区域マスタープラン)  
平成 16 年(2004 年)4 月施行  
貴重な都市空間として有効な土地利用を行い、良好な市街地の形成をはかる「都市拠点」として位置づけられている

吹田市都市計画マスタープラン  
平成 16 年(2004 年)3 月策定  
本市と地域の未来をひらく魅力的な環境創造をリードする拠点



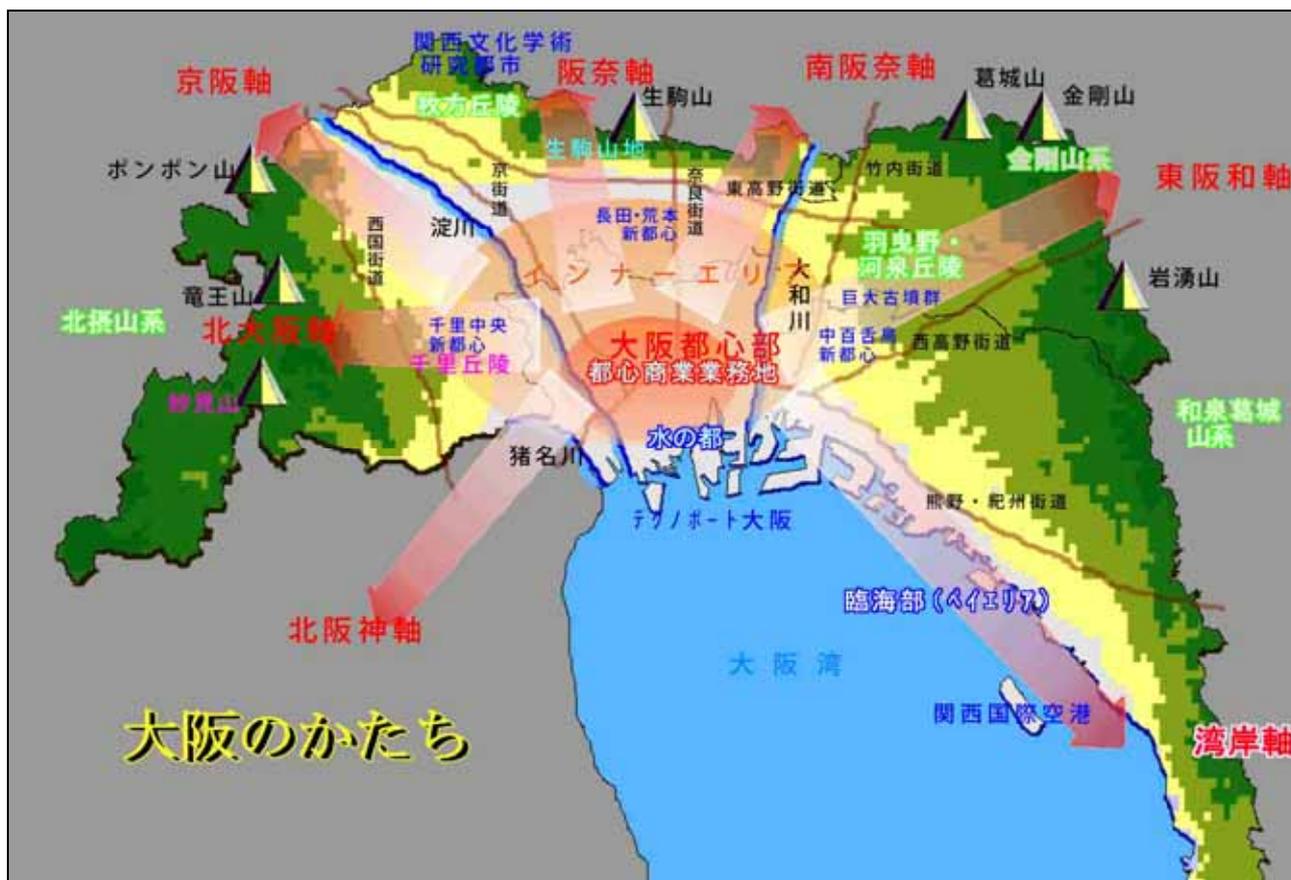
摂津市都市計画マスタープラン  
平成 12 年(2000 年)2 月策定  
将来的な都市拠点としての整備も視野に入れ、隣接市とも連携した土地利用を検討



## (2) 大阪府国土利用計画（第三次）(平成 13 年（2001 年）10 月、大阪府)

大阪府国土利用計画（第三次）は、国土利用計画法第 7 条の規定に基づき、大阪府の区域における国土の利用に関して必要な事項を定めたものであり、大阪府土地利用基本計画及び府内の市町村がその区域について定める国土の利用に関する計画（市町村計画）等の基本となるものである。

この中で、「大阪のかたち」として、まちづくりのテーマごとに地域特性に応じて以下の方向性が打ち出されている。



「大阪のかたち」

### 都市環境との持続的共生

- ・都市と自然が持続的に共生していくために、環境負荷のより少なく、循環型のシステムを備えた効率的なまちづくりと、その維持・管理手法を検討していく。
- ・大阪府広域緑地計画に基づいて、周辺山系軸・中央環状軸・河川軸・大阪湾岸軸を基軸にみどりをまもり・ふやし・つなぎ・ひろげていく。

### 魅力ある都市環境の創造

#### 個性豊かな地域ブロックの形成

- ・都市の魅力や活力を高めつつ、生活環境の持続的な向上のために、多様な機能が、それぞれの生活圏に応じて効率的に確保されるとともに、温暖化など地球環境への影響も軽減され、エネルギー効率上も有利な循環システムを備えたコンパクトで個性豊かな地域ブロックの形成をめざしていく。
- ・都心居住機能の回復、職住近接の復活、産業の活性化、教育・福祉・文化・レクリエーシ

- ョン機能などの充実を図り、都市の再生を進める。
- ・また、高度な都市活動を支えていくために、機能的な道路・街路などの整備を行うとともに、交通需要マネジメントなどへの取り組みにより、環境に配慮した円滑で効果的な都市交通体系の形成を進めていく。
  - ・特に、日々の生活の基礎となる日常生活圏については、コンパクトな地域ごとに安心してサービスや都市機能が享受できる基盤や施設の整備を進めるとともに、高齢社会とライフスタイルの変化を踏まえた多様な住まいの形成を図る。
  - ・各市町村の駅前などの中心市街地については、人口回復や商業の活性化を導くよう、生活・サービス拠点や交流・コミュニケーションの場としての都市機能を確保するよう整備を図る。
  - ・広域的な地域の核となる都市拠点については、地域性を活かしながら、商業・業務・福祉・医療・文化などの複合的機能を、高度化し集積するなどにより整備を図る。
  - ・特に、インナーエリア（大阪市外縁部及びその周辺に広がる密集市街地）については、交通利便性が高く、都心に近いという特性を活かし、職住近接の魅力ある多様な都市居住を推進していく。このため、街路等の都市基盤整備、木造建築物が密集する地域の住宅の共同化・協調化、地域のイメージアップを促す良質な中高層の集合住宅と計画的かつ集合的な都市型戸建住宅の供給、建築物の不燃化・耐震化の促進などにより、災害に対する安全性を高め、住宅・住環境の向上を図る。

#### 地域別の土地利用の基本方向：北大阪地域

計画地が位置する、北大阪地域における土地利用の基本方向としては、以下のような内容が挙げられている。

- ・北大阪地域は、既成市街地の整備を進め、良好な地域環境の形成を図るとともに、丘陵部の一部では自然環境と調和した良好な新市街地形成を計画的に図っていく。さらに、国土の主軸上に位置するという有利性、並びに高度な学術・研究機関、文化施設の集積等を活かし、商業・業務・流通機能、国際的な学術文化・研究開発・情報の中核機能を備えた魅力ある地域の形成を図る。
- ・宅地については、既成市街地において、住宅地の整備を進めるとともに、良好な住宅地を中心に住環境の維持、増進を図る。特に、大阪市外縁部に広がる狭小住宅密集地区においては、都市基盤施設の整備やオープンスペースを確保した総合的な住環境の整備を進める。商業・業務地については、都心機能を分担する高次の都市核形成とともに、主要な交通結節点や駅前地区等を中心として複合機能を備えた都市核の形成を図る。

### (3) 都市計画区域マスタープラン（平成16年（2004年）4月、大阪府）

#### 大阪府の広域的・根幹的課題

都市の現状を踏まえ、将来にわたり影響を及ぼすと考えられる、広域的・根幹的課題を以下のように打ち出している。

- ・急速な高齢化と人口減少時代の到来
- ・「みどり」の空間の減少
- ・産業の空洞化
- ・都市防災 等

#### 課題解決への展開

##### 1) 基本姿勢1

人口、産業の集積及び社会基盤のストック（蓄積）がそれぞれ異なる都心、インナー、アウトターの3つのエリアでストックをいかし、地域の個性、産業などのポテンシャル（潜在力）を引き出す。

都心エリア：概ね JR 大阪環状線の内側を中心として、高度な都市機能や社会基盤を有するエリア。

インナーエリア：交通利便性の高い大阪市縁辺部およびその周辺地域。

アウトターエリア：インナーエリアの外側に広がる周辺山系や農地等を含むエリア。

##### 2) 基本姿勢2

地域の住民と行政が協力し、地域と人、人と人の繋がりを大切にして、地区、沿道、街区レベルできめ細やかなまちづくりが実施され、地域の個性を引き出す地域マネジメント型まちづくりに転換する。

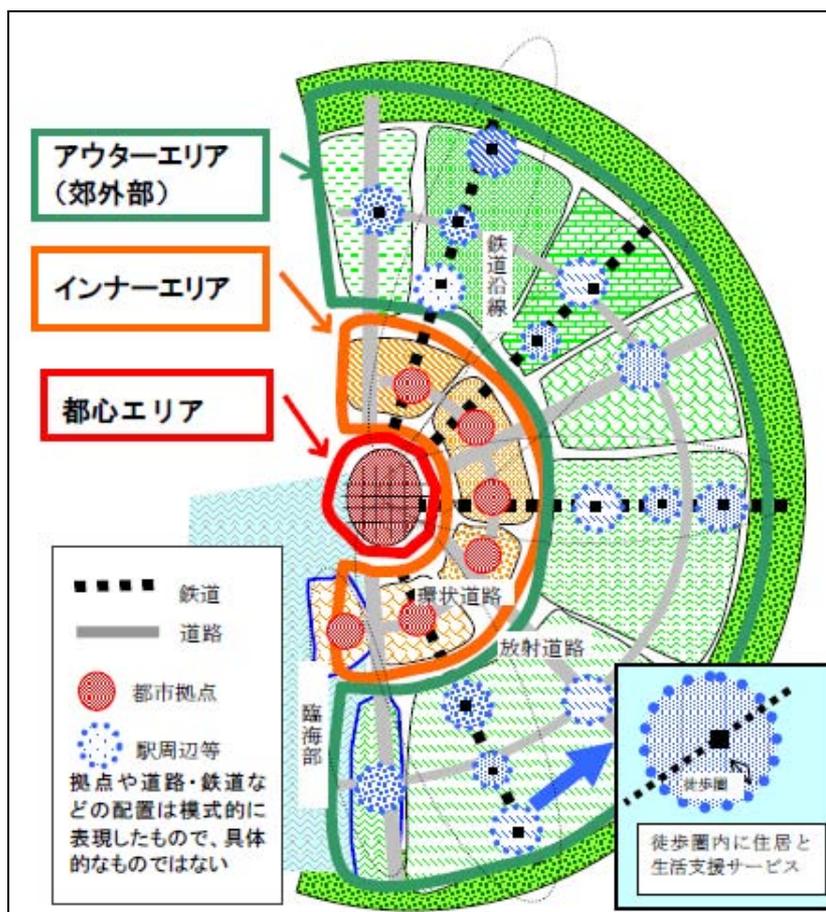
#### 新しい大阪府の都市像

##### 1) 新しい大阪府の都市像



新しい大阪府の都市像

## 2) 大阪府の将来都市構造



将来都市構造のモデル図

- ・計画地は、インナーエリアに属し、その中での都市拠点として位置づけられることとなる。  
都市拠点：鉄道と幹線道路の交通結節点等で、居住や商業機能が集積した拠点。

### 3) 各エリアの将来像（都市拠点や計画地に関する記述）

- ・インナーエリアでは防災性の高い豊かな居住環境を形成する。
- ・特に産業が集積した地域などでは商業・居住機能を強化し、職住近接を図るなど良好な企業環境を形成していくことで、人口減少・少子高齢化時代においても都市活力を有する魅力ある地域へと再生していく。

#### 【都市拠点およびその周辺】

- ・一定の拠点性や工場跡地などの大規模な未利用地を有する地区において、商業・業務・居住などの機能を集積し、都市拠点を形成する。
- ・居住機能を強化するとともに、それを支える日常の買い物などの基本的な生活関連施設、生活支援サービス機能の充実を図る。

### 施策の基本的方向（計画地に関する記述）

#### 1) 主要な土地利用の方向

- ・インナーエリアの地域拠点には、地域の核となる商業・業務機能の集積を図るとともに、高中密度な居住空間と十分な公共空間の配置を図る。

## 2) 主要な都市施設の整備の方向

- ・車から環境の負荷の少ない鉄道などの公共交通機関への利用転換の促進や、歩道空間の充実に視点を当てるなど、車から人に視点を移した整備、災害防止に加え地域の個性を引き出す、まちづくりと一体となった道路整備などを図る。

## 3) 主要な市街地開発事業の整備の方向

- ・駅を中心とする市街地では、土地区画整理事業や市街地再開発事業により土地の高度化を図ることによって、商業・業務機能を集約し高中密度の居住空間を配置するとともに公共施設を整備して、地域・地区を支える活力ある都市拠点と良好な都市環境を創出する。

(4) 吹田市都市計画マスタープラン（平成 16 年（2004 年）3 月、吹田市）

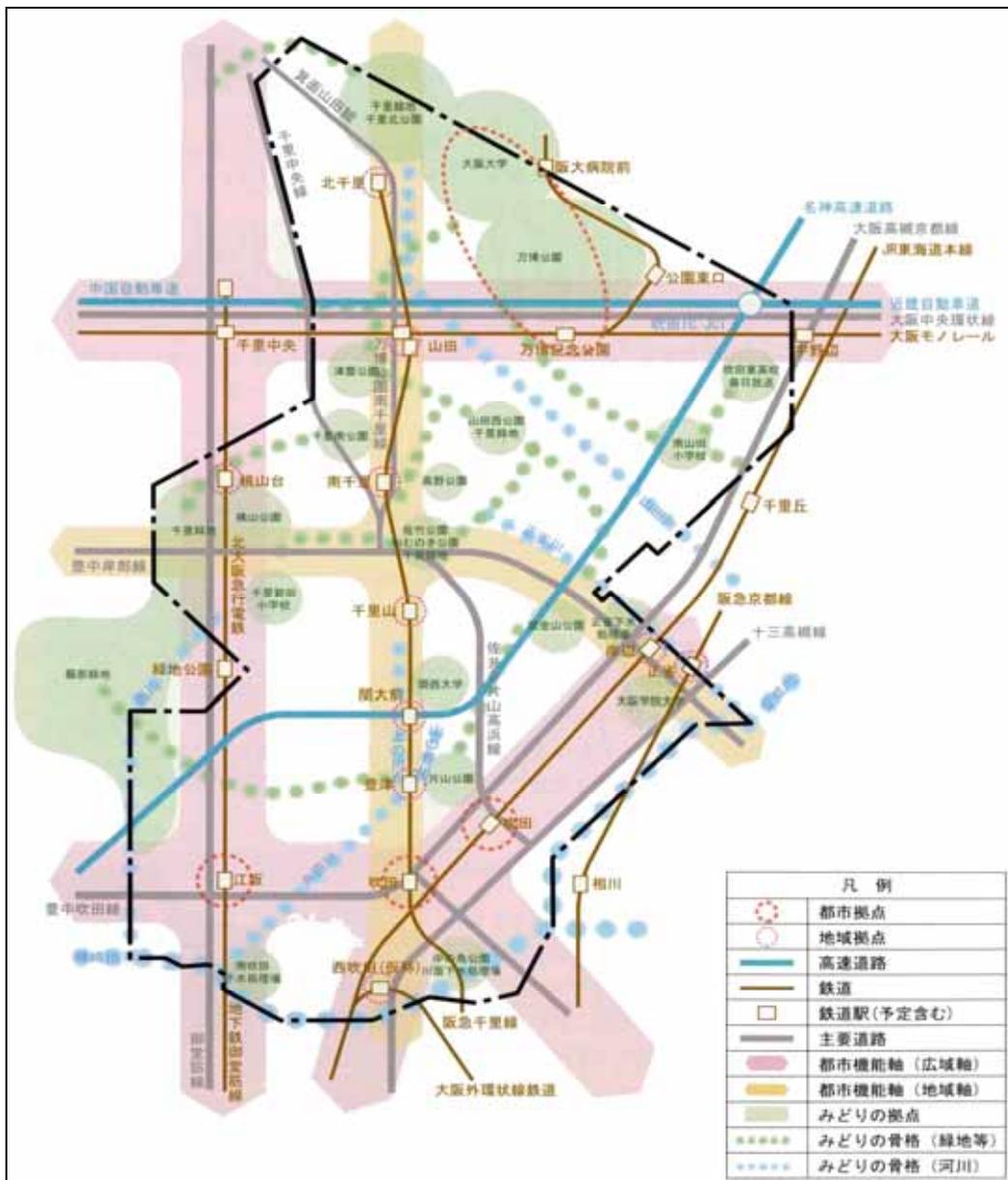
まちづくりの基本理念

1) 暮らしに安心と快適性をもたらすまちづくり

- ・人にやさしい歩いて暮らせるまちづくり。
- ・災害と犯罪に強く安心・安全で健康に暮らせるまちづくり。
- ・多様なライフスタイルを支える環境づくり。
- ・都市活動を支える都市基盤の充実と計画的土地利用の誘導。

2) 誇りと愛着性の持てる定住のまちづくり

- ・個性豊かな地域づくり。
- ・地球環境の保全と環境への負荷の小さいライフスタイルへの支援。
- ・吹田らしい特徴のある文化都市づくり。
- ・多様な主体の協働によるまちづくり。

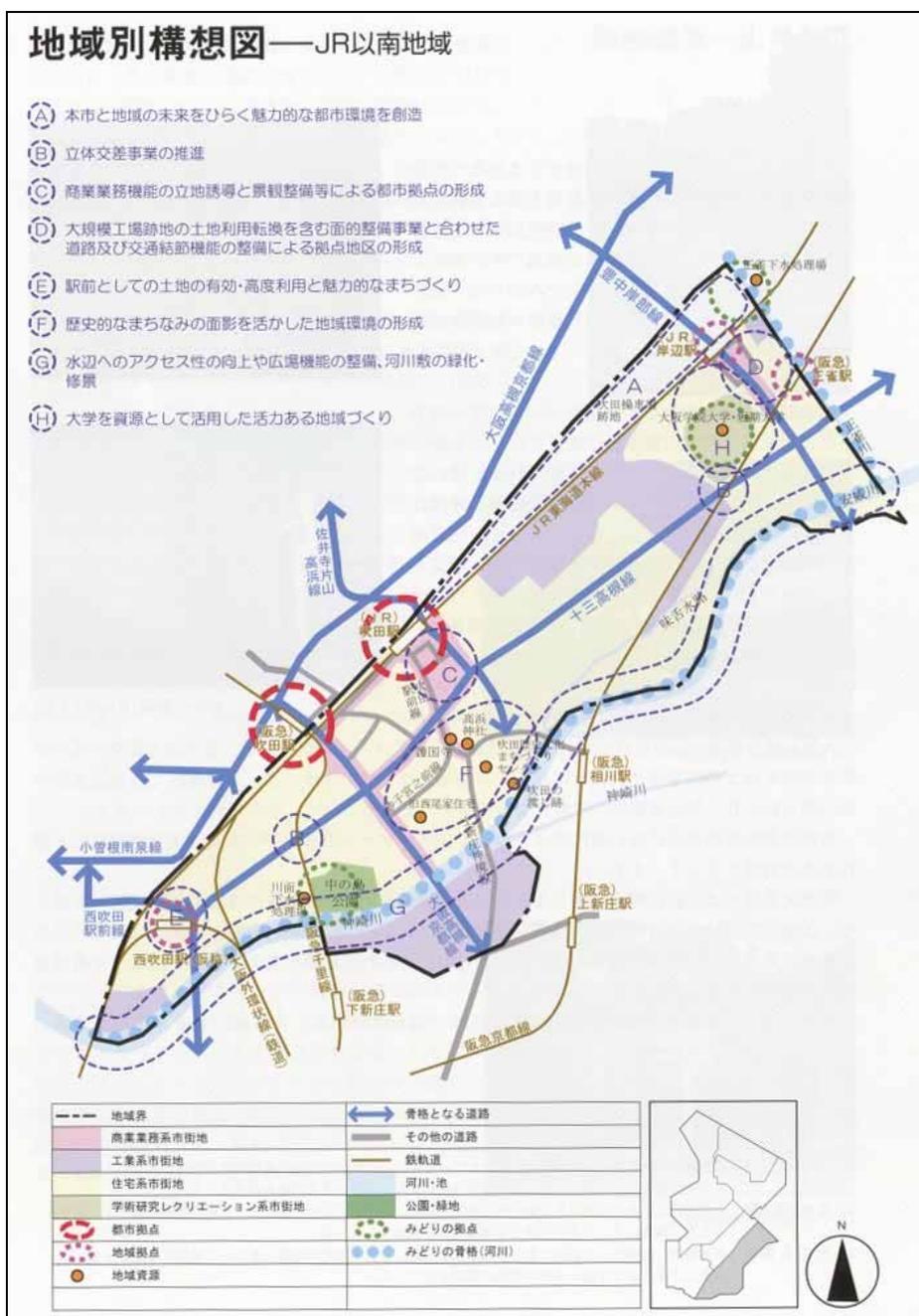


吹田市全域の都市空間の将来像

## 計画地を含む「JR以南地域」の地域別構想

まちづくりのテーマ：地域のまちづくりにおいて重要な資源である吹田操車場跡地については、地域の新しい未来をひらく魅力的な都市環境の創造をめざす。

- ・ 広域幹線で地域の骨格を形成する主軸でもある十三高槻線、豊中岸部線の整備により、生活道路への通過交通の流入を防止するとともに、景観にも配慮した街路樹の整備などにより沿道地域との間の緩衝帯の形成に努める。
- ・ 地域内に不足している比較的規模の大きい公園の整備を検討するとともに、まちかど広場などの市街地内の身近なオープンスペースの確保に努める。
- ・ 吹田操車場跡地は、本地域のみならず本市全体のまちづくりに大きな影響を与えるものであり、社会的動向を見据えた今後の土地利用構想の進展とあわせて、本市と地域の未来をひらく魅力的な環境創造をリードしていくため必要な整備のあり方を検討する。



(5) 摂津市都市計画マスタープラン（平成 12 年（2000 年）2 月、摂津市）

まちづくりの基本理念

- ・市民が集まりにぎわう場とネットワークを持つまちづくり。
- ・自然的環境と共生する、水とみどりにふれあうまちづくり。
- ・快適で安全な住環境を持つまちづくり。
- ・すべての人にやさしいまちづくり。
- ・社会の変化に柔軟に対応する活力あるまちづくり。
- ・行政と市民の協働によるまちづくり。



摂津市の都市の将来像

## 計画地を含む「北部地域」の地域別構想

### 1)にぎわいがあり、活力あふれる都市空間づくり

- ・「吹田操車場跡地」については、将来的な都市拠点としての整備も視野に入れ、隣接市とも連携を図りながら土地利用を検討する。
- ・千里丘三島線では、交通渋滞の要因となっている JR 東海道本線下のガード部の拡幅整備を進める。
- ・吹田操車場跡地の土地利用に伴う新たな都市計画道路を検討する。

### 2)より快適で安全な、質の高い生活空間の創出

- ・歩行者が快適で安全に歩ける生活道路の整備を進め、緑道の整備や街灯の設置等とともに、バリアフリーにも配慮した歩道整備に努める。

### 3)うるおいと魅力ある都市空間の創出

- ・うるおいある水とみどりの都市空間の創出を図る。
- ・魅力的な都市景観形成を進める。



北部地域のまちづくりの方針

## 2. 自然環境に関する計画

### (1) 自然環境に関する上位計画における吹田操車場跡地の位置づけ

大阪府 21 世紀の環境総合計画 平成 14 年(2002 年)3 月策定  
循環型社会を目指した環境都市づくり

吹田市環境基本計画  
平成 9 年(1997 年)3 月策定  
みどりと水と文化あふれる生命にやさしいまち

摂津市環境行動計画  
平成 7 年(1995 年)3 月策定  
環境創造都市宣言(平成 6(1994)年 4 月)  
人と環境が共生する都市・せつつ

大阪府広域緑地計画 平成 11 年(1999 年)3 月策定

大小様々なみどりを歩道、緑道や水辺等により有機的に連結し、みどりの連続性を確保する。



吹田市みどりの基本計画  
平成 9 年(1997 年)3 月策定  
人と自然が共生するみどり豊かなまち  
〔自然生態系都市(まち)づくり〕

摂津市緑の基本計画  
平成 10 年(1998 年)3 月策定  
はな・みどり・みずのまち・さわやか摂津を将来像とした 5 系統の目標設定。

## (2) 大阪府 21 世紀の環境総合計画 (平成 14 年(2002 年)3 月、大阪府)

### 長期ビジョンと 4 つの基本方向

長期的な計画目標として、「豊かな環境都市・大阪」の構築を挙げており、「循環」「健康」「共生・魅力」「参加」の 4 つの基本方向を定めている。

- ・循環：持続的発展が可能な循環を基調とする元気な社会の実現。
- ・健康：環境への負荷が少ない健康的で安心なくらしの確保。
- ・共生・魅力：豊かな自然との共生や文化が実感できる魅力ある地域の実現。
- ・参加：すべての主体が積極的に参加し行動する社会の実現。

これらの基本方向に基づき、すべての主体(産学官民)が「参加」することを基礎として、「循環」「健康」及び「共生・魅力」で掲げる取り組みを相互に連携させるとともに、「資源循環」「水循環」「地球環境」「交通環境」「有害化学物質」「エコロジカルネットワーク(水と緑のネットワーク)」を今日の大阪の主要な課題として位置づけ、長期的には都市構造を適切に変革していくことも視野に入れて、それぞれの目標の達成をめざすものとしている。

### 各課題ごとの実現方策

#### 1)資源循環

- ・廃棄物の発生抑制とリサイクルの推進：廃棄物の発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)を推進。
- ・リサイクルのための施設整備：循環型社会の構築をめざす「大阪エコエリア構想」の推進
- ・府民、事業者等との連携の強化：最適生産・最適消費・最少廃棄型社会の構築をめざし、すべての主体による取り組みと連携強化。

#### 2)水循環

- ・自然の水循環への影響が少ない水資源の利用：都市域での水の効率的利活用をはじめとした水資源の適切な利用。
- ・自然の水循環の安定的確保：都市域での雨水貯留施設の設置や透水性舗装の推進。
- ・水を大切に使い、守り育てる文化の育成：親水空間の整備や河川等の水質改善等の美しい水辺を身近なものにする取り組みを進めるとともに、水循環の保全・回復のための活動での各主体の積極的な参加・連携を促進・支援。

#### 3)地球循環

- ・地球温暖化対策推進法に基づく施策：温室効果ガスの一層の排出抑制。
- ・省エネルギーの徹底：E S C O事業の活用や省エネルギー計画書の提出、グリーン購入の促進。
- ・新エネルギー、未利用エネルギーの活用：太陽光発電や天然ガスコージェネレーションなどの新エネルギーの普及や河川水や下水の温度差エネルギーなど未利用エネルギーの活用。
- ・地球温暖化対策に対する自主的取り組みの促進：大阪エコアクション宣言事業の推進。
- ・フロンガスの適正処理及び脱フロンの促進。

#### 4)交通循環

- ・発生源対策の充実：ディーゼル車対策の推進など。
- ・車社会からの転換：自動車交通量の調整・抑制を図る交通需要マネジメント(TDM)施策

を推進など。

・円滑な交通流の確保。

・ライフスタイル・ビジネススタイルの転換：環境教育や啓発等を通じた自主的な取り組み促進と、税制などによる誘導や規制的手法の展開。

#### **5)有害化学物質**

・環境リスクの適切な管理に基づく効果的な排出抑制の実施。

・有害化学物質に関する知見や情報の収集と提供。

・リスクコミュニケーションの推進。

#### **6) エコロジカルネットワーク（水と緑のネットワーク）**

・エコロジカルネットワーク軸の形成：自然空間の拠点や軸となる自然環境を保全・創出や、生きものの生息・移動の場の提供やヒートアイランド現象の緩和やゆとりと潤いを実感する景観の形成。

・都市空間におけるみどりのネットワークづくり：都市公園や生産緑地、社寺林などの緑の拠点を確保するとともに、街路樹や緑道の整備、市街地の大半を占める民有地の緑化、ビルの屋上・壁面緑化や学校などを中心としたビオトープづくり。

・自然環境の保全・整備手法に係る調査研究の推進。

・各主体の連携を図る。

### (3) 吹田市環境基本計画（平成9年(1997年)3月、吹田市）

#### 望ましい環境像を目指した5つの目標

##### 1) みどりと水と文化あふれる生命にやさしいまち

うるおいとやすらぎを与えてくれるみどりや水辺などの自然とふれあえ、まちの美しさやゆとり、歴史的環境と文化的雰囲気のある安全で生命にやさしい環境を現在及び将来の市民が享受できるまちをめざします。

##### 2) 人の健康の保護及び生活環境の保全（生活環境）

窒素酸化物問題など改善の進まない大気汚染の解決を図り、科学技術の発達に伴って、新たに発生する環境汚染物質の影響を未然に防ぎ、身近な生活環境をめぐる問題にも適切に対処をして、市民の健康を守り住みよいまちをめざします。

- ・工場・事業場に対する環境関連法令に基づいた規制・指導。
- ・電気自動車や天然ガス自動車などの低公害車の普及・促進。
- ・保水能力の向上や雨水利用の促進などによる水循環機能の向上。
- ・化学物質等による環境汚染の防止。
- ・公害健康被害の救済・予防と公害苦情への迅速な対応。

##### 3) 人間と自然とが共生する良好な環境の確保（自然環境）

人間はいろんな生物と共に自然を構成する一員であるとの自覚を新たにし、その保全と復元に努めるなど自然に親しめるまちをめざします。

- ・市内に生息・生育する生きものの保護。
- ・ため池や社寺林など自然の仕組みを活用したビオト - プの保全と回復。
- ・食餌木の植栽などによる生きものの呼び寄せ。
- ・河川敷など自然と触れ合える場の創造と保全。
- ・農業に親しむ市民農園や体験農園などによる農地の保全と活用。

##### 4) 快適な都市環境の創造（都市環境）

史跡・社寺、伝統的祭りなどの歴史的文化的遺産と地域の風土を育んできた鎮守の森などの自然を守り、また、まちなみの美しさ、広場などオ - プンスペ - スの保全によって快適でゆとりのある生活を保障するまちをめざします。

- ・保護樹木・保護樹林の指定などによる市内に残されたみどりの保全と活用。
- ・透水性舗装や雨水浸透柵などでため池・河川水量の確保。
- ・公共施設での先導的役割による個性と魅力ある景観の保全と創造。
- ・旧道標や石碑の保護などで歴史的文化的環境の保全と活用。
- ・くつろぎや交流の場となる駅前広場やポケットパ - クなどの整備と設置。

##### 5) 地球環境保全に貢献できる社会の構築（地球環境）

環境の破壊が地球規模に及んでいる現在、これまでの大量に生産、消費し、廃棄する生活から人々のライフスタイルを環境への負荷の少ない方向へ進め、資源・エネルギー循環型社会へ転換を図るまちをめざします。

- ・廃棄物の減量とリサイクルの促進。
- ・太陽熱など自然エネルギーの活用や効率的なエネルギー利用。
- ・熱帯産木材製コンクリ - ト型枠の使用削減による熱帯林の保護。
- ・二酸化炭素の排出削減による地球温暖化の防止。
- ・再生紙など環境に配慮した商品（グリーン購入）の購入促進。

#### (4) 摂津市環境行動計画 (平成7年(1995年)3月、摂津市)

##### 環境施策の分野別推進方針と総合的体系

###### 1) まちづくり

「健康といのちを守る安全・安心のまち」をめざして

産業公害や都市災害などの防止を基本に、自動車公害、廃棄物の適正処理など都市・生活型公害の対策を進めるなど、関連施策を広域的・総合的に展開します。

- ・産業及び生活公害の廃止。
- ・自動車公害の防止。
- ・廃棄物の適正処理。
- ・化学物質の安全管理。
- ・都市災害の防止。

「うるおいとゆとりのある快適なまち」をめざして

環境資源の特質を十分活かせるよう総合の関連性を考慮し、自然環境の保全と活用、都市景観の保全と創造、歴史的文化的環境の形成などの快適環境施策を展開します。

- ・緑の保全と育成。
- ・水辺との親しみ。
- ・生物生態系の保全と育成。
- ・都市景観の保全と創造。
- ・ゆとりのあるまちづくり。
- ・文化と歴史と国際性のあるまちづくり。

「地球環境を保全する循環・持続型のまち」をめざして

産業活動、生活行動を地域から見直し、廃棄物のリサイクル、省資源・省エネルギーなど、環境に負荷の少ない都市構造の形成と循環型社会システムの構築をめざした施策を展開します。

- ・循環・持続型のまちづくり。
- ・地球環境の保全。

###### 2) ひとづくり

「市民・事業者の参加と協力」による環境の保全と創造を進めるために環境に対する関心を高め、人と環境とのかかわりについて理解、認識を深め、市民や事業者の主体的な行動が促進されるよう環境教育・環境学習の施策を展開します。

- ・環境教育・環境学習の推進。
- ・普及・啓発資料の開発・作成。

###### 3) しくみづくり

「総合的なしくみづくり」をすすめるために、環境施策の計画的な推進や環境配慮の実施などについては、適切な進行管理が重要であり、望ましい環境像の実現に向けて、国や府の環境施策を基本に予見的・総合的な視野に立って法的整備、組織や体制等の整備を図ります。

- ・総合的な条例など法的整備。
- ・環境監査制度の調査・研究。
- ・環境情報データベースの総合化と情報公開。
- ・他の行政機関との環境情報ネットワークづくり。
- ・快適なまちづくり推進体制の確立。

#### (5) 大阪府広域緑地計画 (平成11年(1999年)3月、大阪府)

##### 基本的な考え方

1) 府域の約半分が市街化区域であり、保全手法に加え、活用、創出手法を含めた、自然環境と都市環境の均衡あるみどりづくりを行う。

## 2) 計画の視点

- ・減災の視点。
- ・環境保全（都市環境、生物生息環境）の視点。
- ・今あるみどりの機能を最大限に発揮させる視点。

## 緑地保全・創出及び緑化の目標

### 1) 緑地の確保目標

- ・緑地(都市公園など)の大阪府域面積に対する割合を約 4 割以上確保する。

### 2) 緑化の目標

- ・大小様々なみどりを歩道、緑道や水辺等により有機的に連結し、みどりの連続性を確保する。
- ・市街地で、みどり豊かであると感覚的、意識的に満足できる水準として、樹林や樹木で被われた面積の市街地全体に対する割合を示す、緑被率 15%を目指す。
- ・府民が率先してみどりについて考え、そしてみどりを保全・創出することのできるような、府民参加の仕組みや府民が主体となった取り組みへの支援を拡充する

## みどりの将来像（北大阪地域）

### 1) 吹田操車場跡地の位置づけ

- ・「中央環状緑地群」に位置している。
- ・周辺に立地する主要な公園緑地としては、「万博記念公園」「服部緑地」があり、淀川を挟んで「鶴見緑地」がある。
- ・淀川や安威川を中心とした水系軸にも隣接している。

### 2) みどりの現状

- ・緑地面積：約 28,800ha
- ・都市公園等の面積：約 1,490ha
- ・市街化区域における緑被率約 14.0%  
(計画目標の 15%に近く、大阪府下では、緑地に恵まれた地域を形成)

### 3) 緑化方針

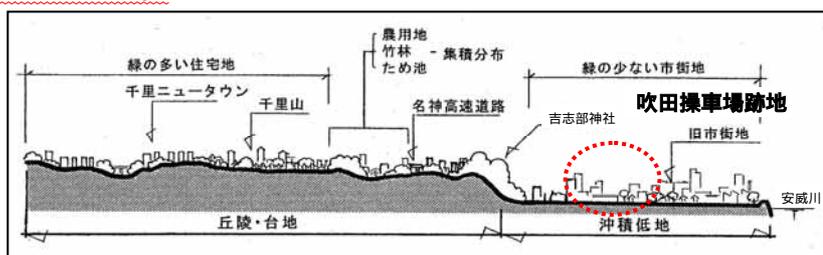
- ・大阪中央環状線等の街路樹の育成と充実。
- ・淀川、猪名川、神崎川、安威川、芥川等の河川の環境整備。
- ・高槻処理場及び中央処理場等の下水処理場や学校等の公共公益施設の緑化。
- ・国際文化公園都市や水と緑の健康都市におけるみどり豊かな市街地の形成。
- ・農地、ため池、水路等が一体となったみどり豊かな農空間の形成。
- ・民有地緑化の促進。

## (6) 吹田市みどりの基本計画 (平成9年(1997年)3月、吹田市)

### 現況特性

#### 1) 地形特性

- ・南北で見た場合、旧市街地が位置する沖積低地と千里などの丘陵・台地に分けられる。
- ・吹田操車場跡地周辺は沖積低地となっており、安威川低地に位置している。
- ・市域北部には千里丘陵や岸部台地など南にゆるやかに傾斜する起伏差の少ない丘陵地となっている。



#### 2) みどりの現況

- ・北部の千里丘陵や岸部台地には、万博記念公園や大阪大学などまとまった緑が分布し、量と質が今日まで継承されている。
- ・低地である南部市街地と千里山の丘陵地が接している地域では、紫金山公園や吉志部神社等の斜面林、吹田市立博物館や関西大学をはじめとする数多くの施設における緑が帯状に分布している。
- ・吹田操車場跡地を含めて、南部市街地では、オープンスペースが乏しく、片山公園や生産緑地を除いては、まとまった緑はほとんど見られない状況である。
- ・河川については、南部市街地を中心に神崎川や安威川、山田川や糸田川、正雀川などがあり、貴重なオープンスペースといえる。

### みどりの計画目標

#### 1) 緑被率

- ・緑被率 30%を目指す。  
吹田市快適環境推進構想の市民意識調査による「気軽にふれあえる自然」を感じる目安大阪府における目標値は15%であるため、非常に目標水準は高いといえる。
- ・(参考) 地域ごとの緑被率の例  
千里ニュータウン地域: 40.3%、山田・千里丘地域: 28.2%、千里山・佐井寺地域: 17.4%  
豊津・南吹田地域: 8.0%、JR以南地域: 4.7%。

#### 2) 拠点となるみどりの確保

- ・市域の20%以上の緑地を確保する。
- ・住区基幹公園の面積を市域面積の4%確保する。

#### 3) 緑と水のネットワーク

- ・市域に点在するみどりを有機的に連続させる。

・緑による丘の辺の“緑”と河川等による川の辺の“水”とを連携したネットワークを計画する。

吹田操車場跡地のうち、岸边駅周辺は「川の辺緑地拠点」に指定されており、その整備内容としては以下のような内容が挙げられている。

まとまりある緑地の保全と再生

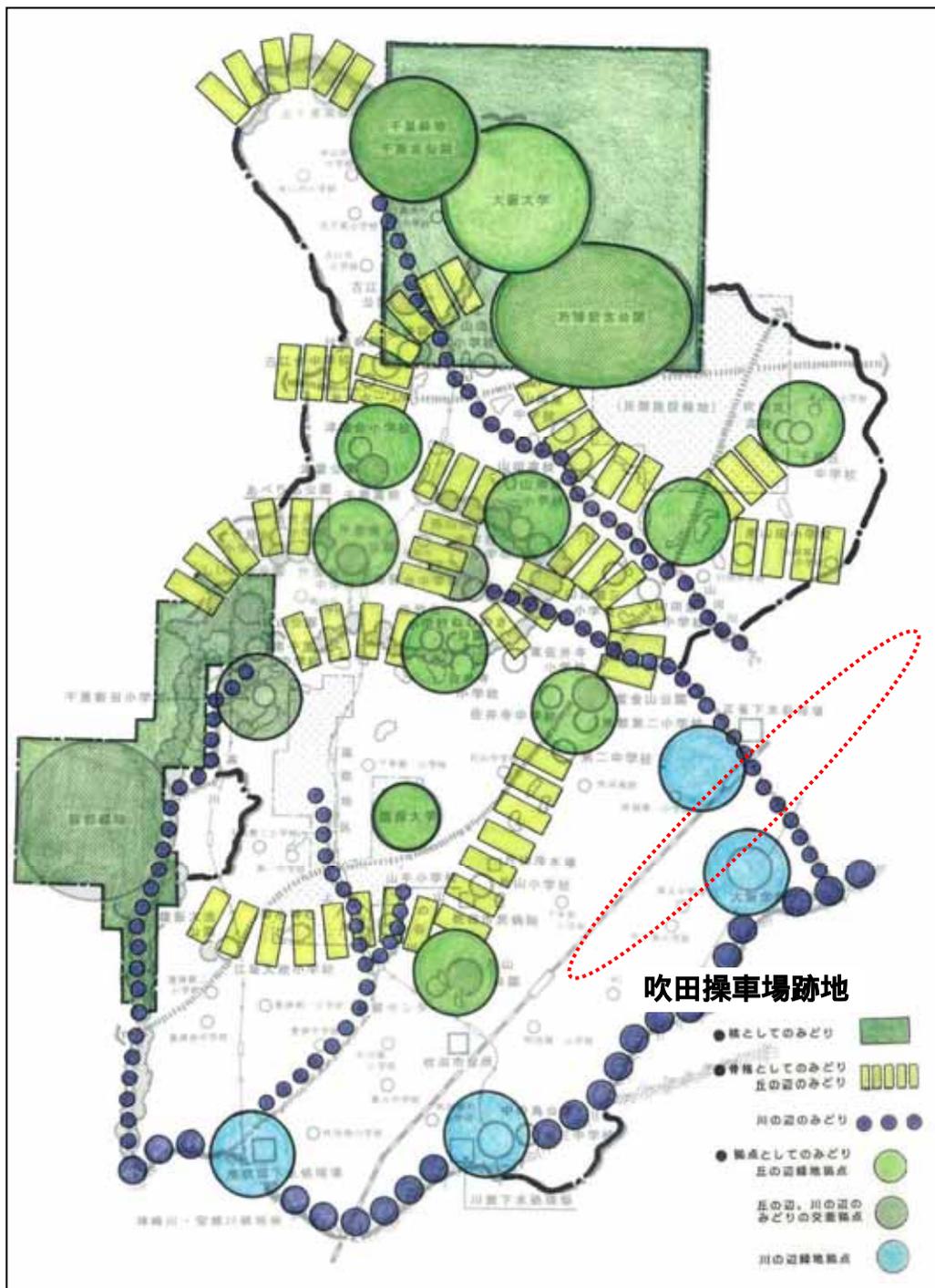
ビオトープ園の設置

生きものの生息や地域の環境改善に配慮した緑化

災害時の避難、救援援助に資する施設整備

川に映える花の名所づくり

積極的な水の導入による水景づくり



(7) 摂津市緑の基本計画 (平成10年(1998年)3月、摂津市)

摂津市の概況

1)都市特性

・地理的立地条件

国土軸上・大阪市の均衡・大阪府の放射・環状系都市骨格の交点付近に位置。

・基調をなす環境条件

淀川右岸・安威川合流点付近に広がる水路の発達した農業田園地域。

山地・丘陵地がなく、全域がほぼ平坦地。

・市街地形成の経緯

町村合併による市の誕生(分散型の都市構造)。

計画的・自然発生的市街地の併存。

旧集落内に残るかつての面影(古木・巨木のある屋敷林・河畔林など)。

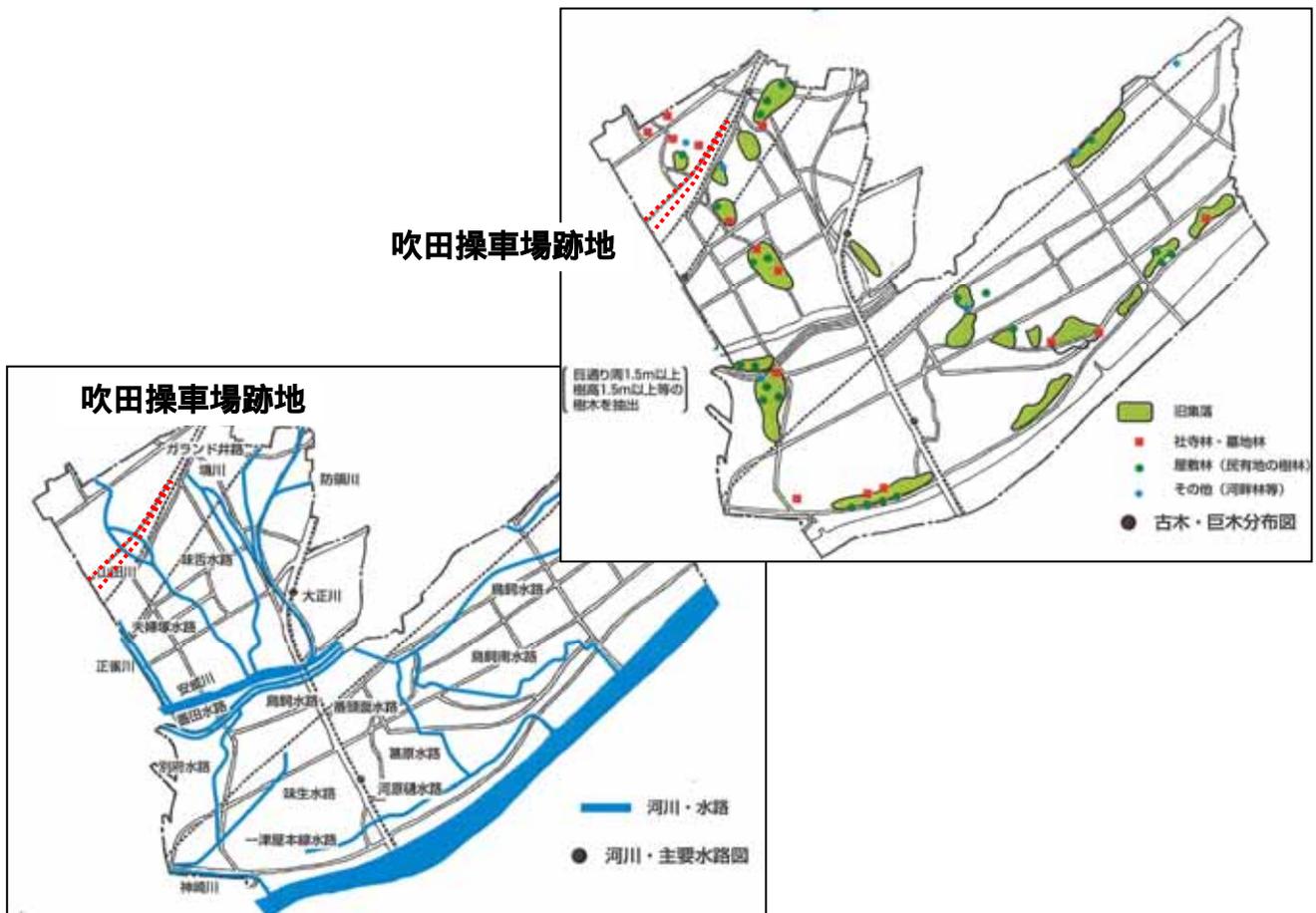
2)緑の現況量と分布

・都市計画区域における緑の合計は概ね230haで、市域の約15%となっている。

・内訳としては、水面・ススキ等の草地・水田が8割を占めている。

・吹田操車場跡地周辺においては、正雀下水道処理場敷地内の緑があるものの、まとまった緑はほとんど見られない状況である。

・河川については、吹田操車場跡地周辺には正雀川があり、市域としては、淀川や安威川があり、緑に関する空間の大半を占めるとともに、貴重なオープンスペースとなっている。



## みどりの計画目標

### 1) 緑の目標量

- ・都市計画区域において、概ね300ha、約20%の緑の確保を目指す。
- ・大阪府における目標値15%よりも高い目標水準となっている。

### 2) 緑の将来像と基本方針

- ・(将来像)はな・みどり・みずのまち・さわやか摂津。
- ・環境保全系統：自然と共に暮らす、持続可能な環境づくり。
- ・レクリエーション系統：様々なレクリエーション活動が可能な環境づくり。
- ・防災系統：緑を基盤とした安心して暮らせる環境づくり。
- ・景観構成系統：郷土の景観を大切に、新しいまちの姿を整える環境づくり。
- ・緑の保全・整備：緑を守り、育む市民主体の環境づくり。

### 3) 総合的な緑地の配置方針

都市骨格を構成する緑地の配置

河川や幹線道路を活用して都市構造を明確にする都市の緑の骨格形成を図る。

4系統地域～広域レベルで重要な緑地の配置

環境保全など4系統の各観点や大阪府・摂津全市・市内各地域レベルで総合的に重要な緑地を大切に配置とする。

地域を特徴づける緑地の配置

山や丘陵地のない本市を特徴付ける河川・水路や社寺林等の他、産業都市を特徴付ける工場・流通施設の緑地を活用した配置とする。

緑のネットワークの形成

緑化道路やふれあいつづみなどの水辺を活用して、市内の緑の拠点を有機的にネットワークし、整備・利用効果の向上を図る。

地域バランスを考慮した緑地の配置

安威川の南北両地区や各住区の整備水準が大きく異ならないよう、各地区・住区の緑地の充足度を考慮した配置を行う。



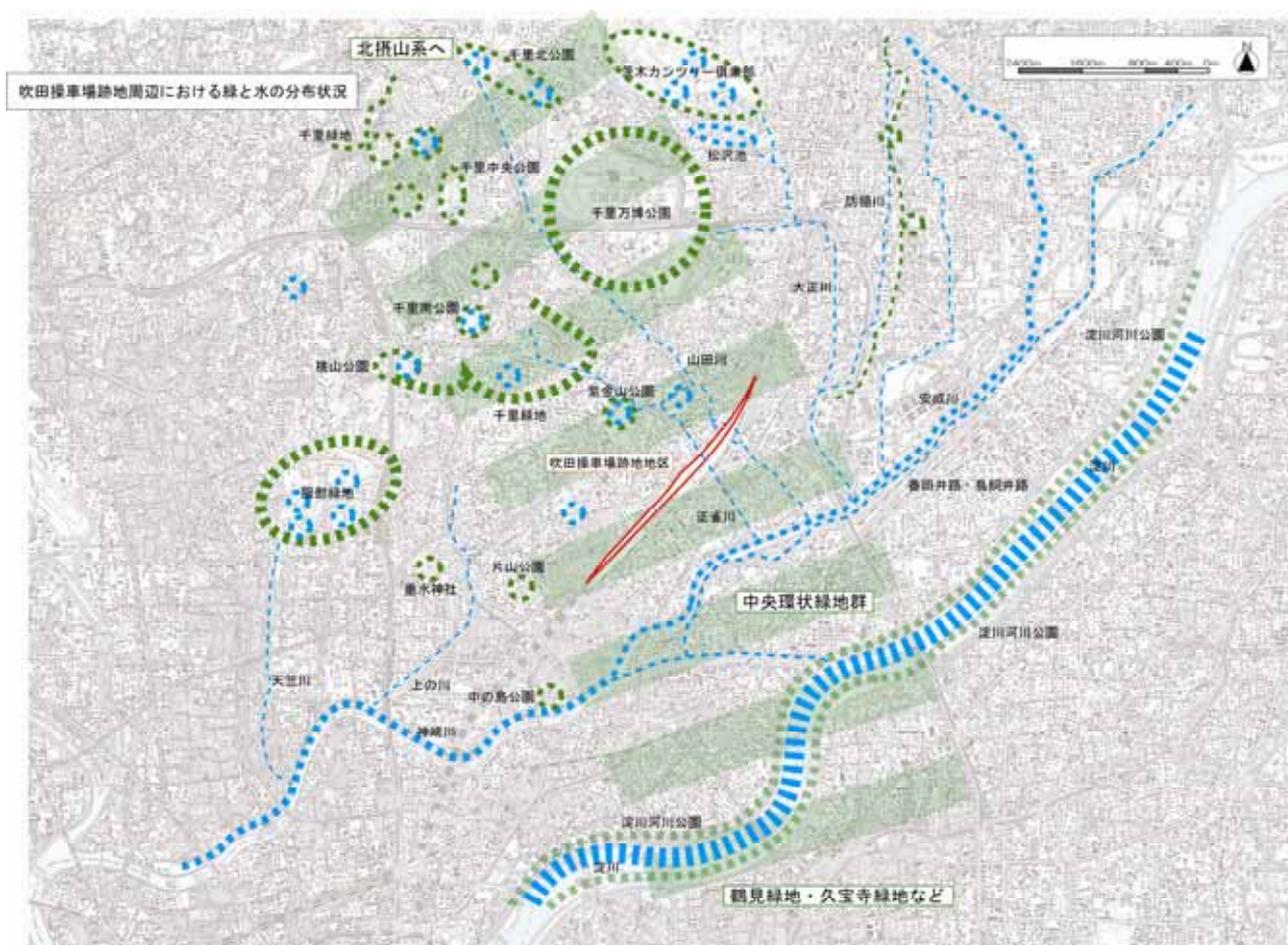
## ．周辺地域の特性

### 1．緑や水などの自然資源の分布

吹田操車場跡地は、沖積低地に位置していることもあり、北西部の千里丘陵に比べても緑の分布は少ないものの、北から北摂山系、万博記念公園や服部緑地などの大規模な公園緑地、丘陵部と低地の境界に位置する帯状の千里緑地や紫金山公園など、まとまった緑が存在している。

地区南側においては、住区基幹公園などがあるものの大規模な緑地は淀川を越えて鶴見緑地まで見られない。ただし、安威川や神崎川、淀川などの主要河川に加え、山田川や正雀川といった千里丘陵からの都市河川があり、緑を繋ぐネットワークとして貴重な自然資源がみられる。

計画地は、大阪府広域緑地計画において、「中央環状緑地群」の軸線上に位置づけられており、北摂山系から千里丘陵、淀川から鶴見緑地に至るまでの、緑のネットワーク形成が目標とされており、計画地において、まとまった緑の整備を行うことは、計画地周辺の市街地環境の向上を促すだけでなく、広域における「中央環状緑地群」の形成にも大きく寄与することが期待できる。

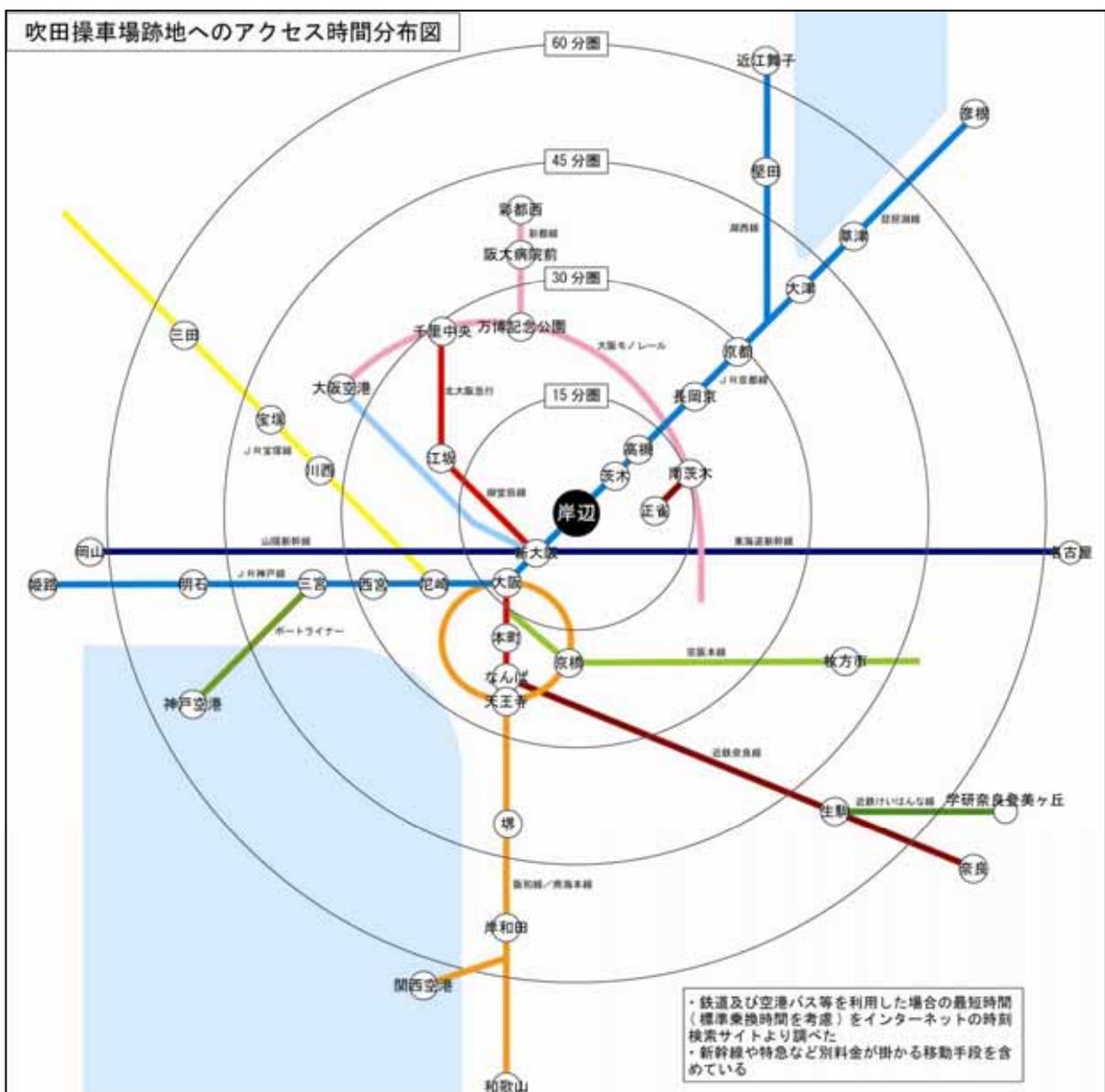


## 2. 鉄道を中心とした交通アクセス

吹田操車場跡地は、JR京都線（東海道本線）に併走して立地しており、中央に岸辺駅があるとともに、東側は千里丘駅、西側は吹田駅に近接している。このため、京阪神の各都市との交通利便性は非常に良好であり、遠方の都市からの来街に対しても、十分対応しうる立地特性を有している。

以下に、京阪神の主要駅からの所要時間に基づく分布図を示しているが、大阪府内はもとより、神戸や京都といった京阪神の大都市からは30分前後で、滋賀や奈良、和歌山といった近畿圏の県庁所在地からはおよそ1時間で、また、遠方からの玄関口となる新大阪駅については7分と大阪都心部にひけを取らない位置に近接しているため、名古屋や岡山といった主要都市からも約1時間で到達できる環境にある。

大阪空港、関西空港、神戸空港のいずれも1時間以内に到達可能な、アクセシビリティの高い立地環境にあり、市域内だけでなく、広域からの集客を図ることが可能な立地ポテンシャルを有しているといえる。



### 3. 周辺の都市機能集積

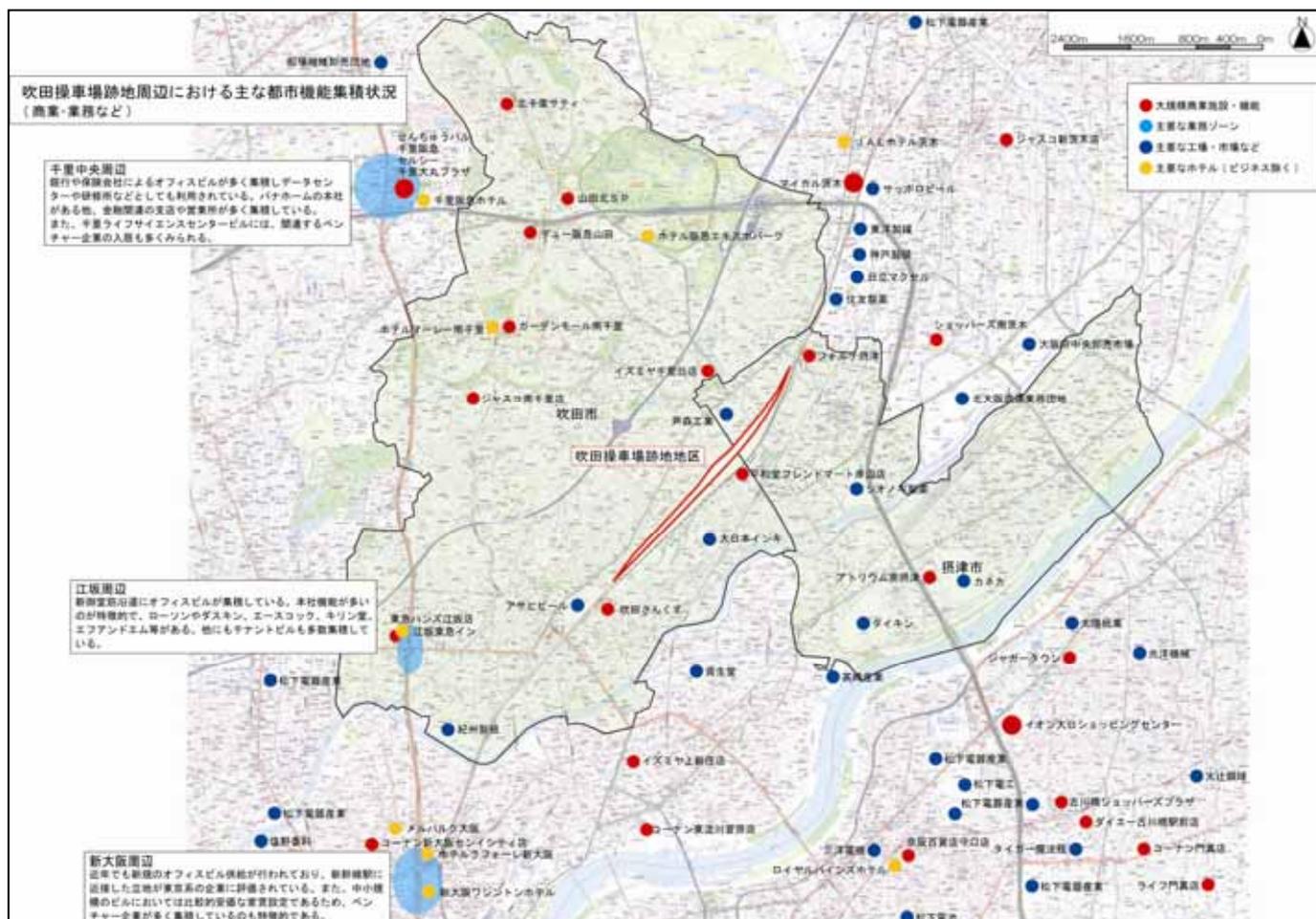
吹田操車場跡地周辺に集積する様々な都市機能を項目別に整理した。

#### (1) 商業施設

千里中央、茨木、大日を中心に大規模な商業集積がなされている。特に茨木のマイカル茨木や大日のイオン大日ショッピングセンターなど、近年のロードサイド型ショッピングセンターの整備が行われ、広域を対象とした商業環境が激化している。吹田市・摂津市域においては、5万㎡を超える大型商業施設集積は見られないが、鉄道駅やロードサイドを中心に中規模の商業集積が整備されている。

#### (2) 業務施設

地下鉄御堂筋線の沿線を中心に業務ゾーンが集積している。新大阪・江坂・千里中央が、代表的な集積地となっており、吹田市の江坂地区では本사를構える企業も多い。大阪の都心部を含めて、業務施設の整備集積動向については、地区の利便性に関する2極化が進んでおり、御堂筋線沿線の淀屋橋や梅田、新大阪等については、新規テナントビルの供給も行われているが、それ以外の地区については、空室率の増加などにより、老朽化したビルの用途転換等も行われているところである。



### (3) 主要な工場

JR沿線や主要幹線道路沿いに立地しており、吹田操車場跡地周辺にも、アサヒビールや大日本インキ、芦森工業などの大規模な工場が立地している。ただし、近年の産業構造の転換や既存施設の老朽化等により、既存の工場を廃止して用途転換を図り、商業や住宅等の開発を図る事例も散見される。

### (4) 主要なホテル

宿泊に加えて会議や婚礼など、交流機能を有する「シティホテル」の立地動向を整理しているが、江坂や千里中央といった業務集積地区や、万博記念公園や南千里など、大学や研究施設など、他地区からの来街がある地区を中心に立地している。このようなホテルについては、地域における「リビングルーム」として、様々な交流活動が展開される機能を有しているが、事業性の問題からも、立地可能な場所については限定される傾向がある。

### (5) 教育施設

大学などの高等教育機関と研究機関が周辺に多数立地しているといえる。計画地周辺には大阪学院大学をはじめ、関西大学、大阪人間科学大学、大阪成蹊大学などが立地している。さらに、万博記念公園周辺には、大阪大学（医学部や工学部など）、金蘭千里大学、総合研究大学院大学などの教育研究機関だけでなく、生物分子工学研究所や大阪バイオサイエンス研究所などの高度研究機関も立地しており、これらのライフサイエンス分野については、彩都（国際文化公園都市）のまちづくりにおいても、重要な関わりを持っている。

### (6) 文化施設

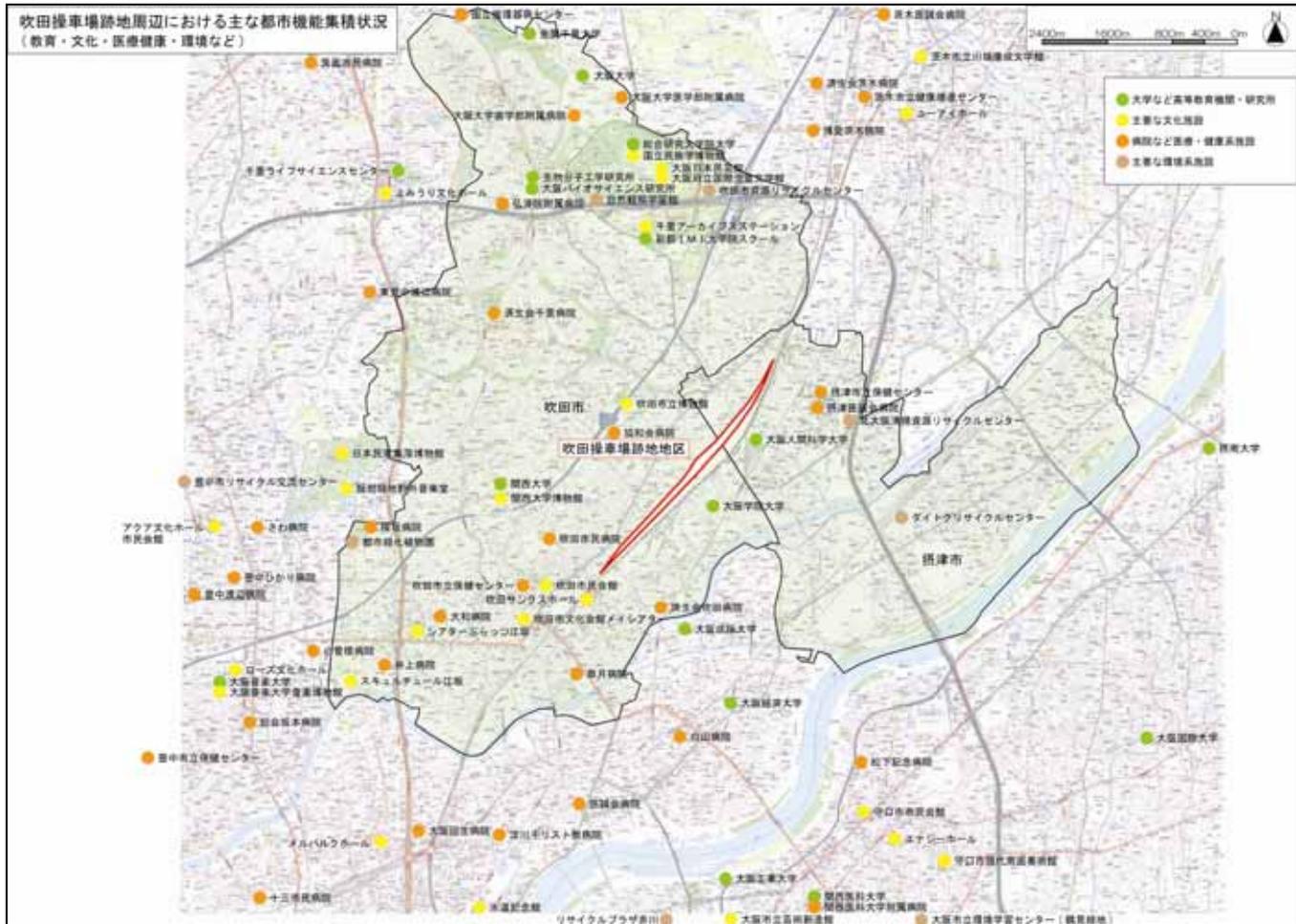
吹田や江坂、緑地公園等の西側と、万博記念公園を中心とした千里丘陵を中心に集積している。地区の北側には紫金山公園があり、その中に吹田市博物館がある。地区西側のJR吹田駅周辺には市民会館やメイシアターなどホールを中心とした文化施設集積がある。また、万博記念公園内には、国立民俗学博物館をはじめとして、大阪日本民芸館や国際児童文学館、千里アーカイブステーション等の施設がある。

### (7) 医療施設や健康増進施設

計画地周辺に高度医療機関も多数集積している状況である。病院については、計画地周辺では吹田市民病院や済生会吹田病院、摂津医誠会病院などがあり、北部の千里丘陵に、大阪大学医学部及び歯学部の附属病院や国立循環器病センターといった高度医療機関が集積しているのが特徴的である。一方、保健センターについては、吹田市及び摂津市の施設が東西に近接して立地している。

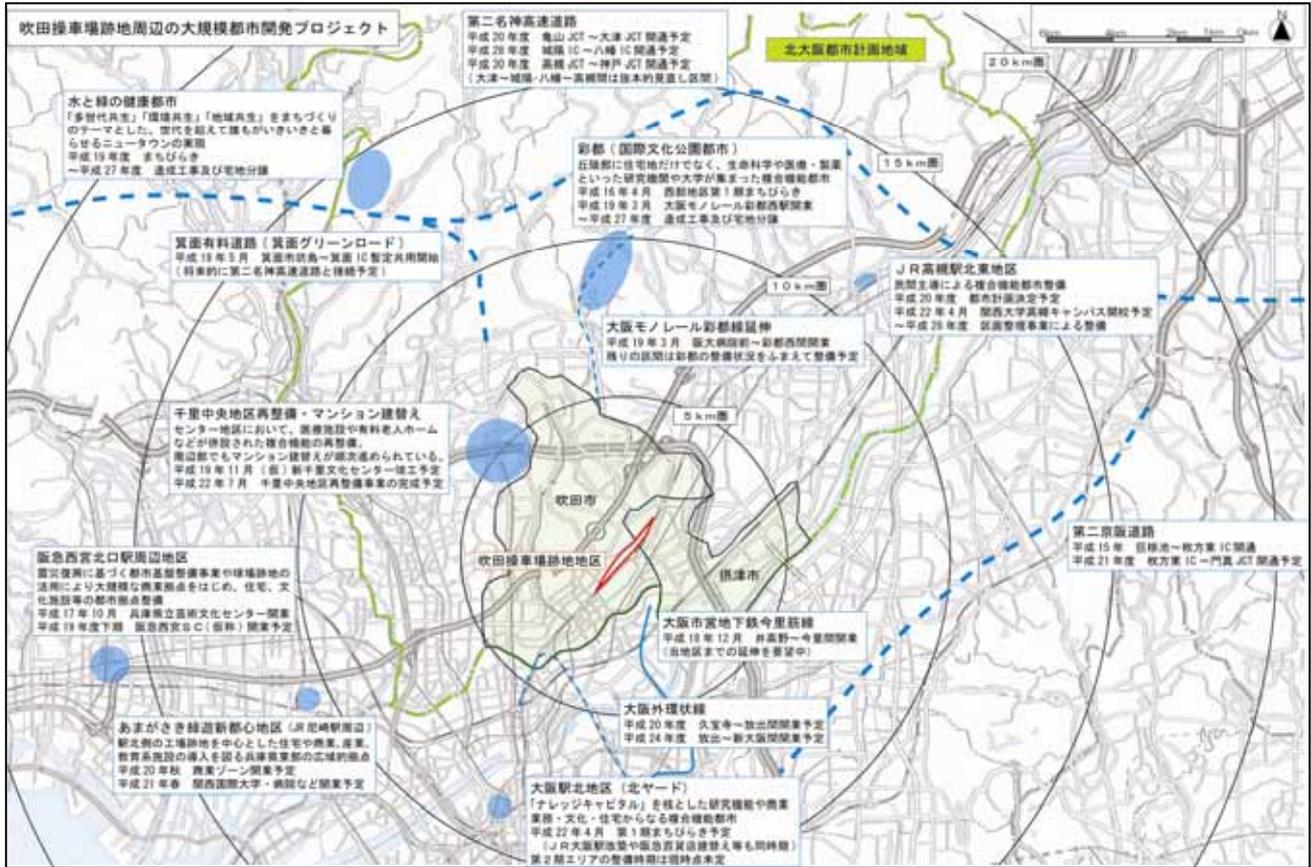
### (8) 環境系関連施設

万博記念公園及び服部緑地といった広大な緑地公園の中に自然観察学習館（万博記念公園）や都市緑化植物園（服部緑地）がある。また、リサイクルについて展示体験や学習機能と実際のリサイクル工場を併設した吹田市資源リサイクルセンターが万博記念公園に立地している。さらに、摂津市域には民間企業によるリサイクル工場が立地している。



## 4. 大規模都市開発プロジェクト(広域)

吹田操車場跡地周辺において、近年の都市再生の政策を背景とした様々な大規模都市開発プロジェクトが実施されている。これらを事業に至る背景や事業内容、導入する中心的な都市機能(以下、「コアP」とする)を整理した。



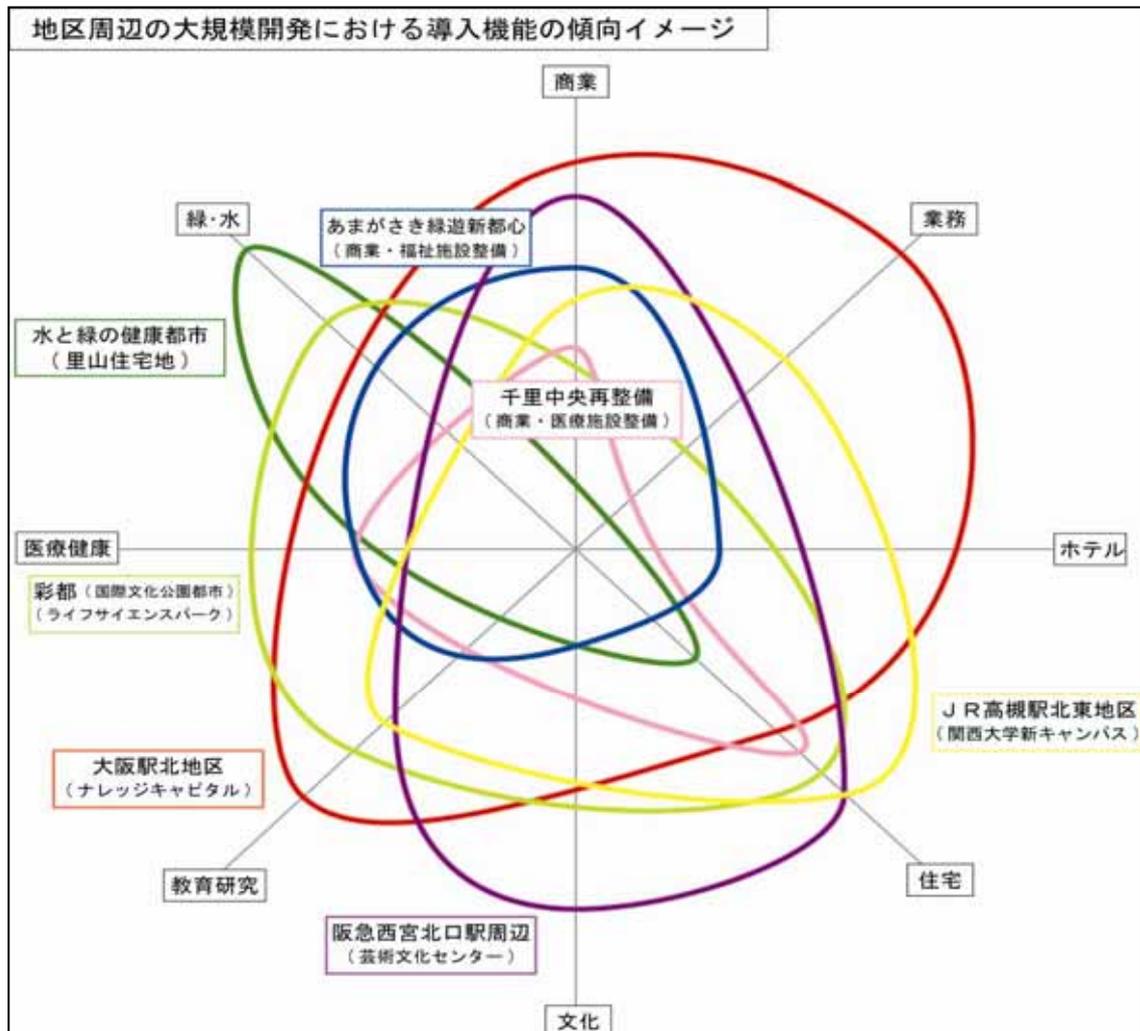
プロジェクト名	千里中央再整備/マンション建替え	彩都(国際文化公園都市)	水と緑の健康都市	大泉駅北地区第1期(北ヤード)	あまがさき緑遊新都心	阪急西宮北口駅周辺	J R高槻駅北東地区
整備目的	既存ニュータウンの建替再整備	新市街地開発	新市街地開発	操車場跡地開発	工場跡地開発	震災復興市街地整備	工場跡地開発
事業手法	民間建替	区画整理	区画整理	区画整理	区画整理	区画整理・再開発	区画整理
コアP	商業及び医療施設	研究機関(ライフサイエンスパーク)	里山住宅地の整備	研究交流機関(ナレッジキャピタル)	大規模商業及び老人福祉施設	文化施設(兵庫県立芸術文化センター)	教育機関(関西大学の新しいキャンパス)
コアP主体	民間	国、中小機構、大学、民間	民間	民間、行政、大学	民間	県	大学
商業	大型電気店、既存商業施設修繕	ガーデンモール彩都(地区内対応)	地区内対応の商業施設を予定	各種大型専門店等の導入を予定	百貨店や量販店からなる複合商業施設	百貨店など大型複合商業施設	既存百貨店の再整備
業務		(研究機関に含める)	恵まれた環境を活かした業務・研究施設を誘致予定	賃貸オフィスを中心とした整備を予定	スポーツ系企業事務所が整備中、従前の工場も建替		コンプレックス棟及び業務施設を整備予定
ホテル				整備予定			整備予定
住宅	集合住宅	戸建・集合住宅	里山住宅等戸建中心	集合住宅	集合住宅	集合住宅	集合住宅
文化	新千里文化センター(建替)			サイバーアートセンター等の情報交流施設を整備予定		兵庫県立芸術文化センター、市の図書館・ギャラリーなど	
教育研究(高等)		医薬基盤研究所、彩都バイオインキュベーター等研究機関		慶応大学サテライト(予定)、アジア太平洋研究所やロボット等	関西国際大学新キャンパス	市の大学交流センター	関西大学新キャンパス
医療健康	病院、有料老人ホーム、保育所	病院、診療所、健康プラザ	診療所などを予定		昭和病院(地区外からの建替移転)、有料老人ホーム	クリニックモール	既存病院に隣接して福祉施設と老人ホームを整備予定
緑や水		あさぎ里山公園を中心に各種公園や植栽、せせらぎなど	住宅の後背地に住民が利用できる里山を整備	幹線道路に面した緑地帯と水路ネットワーク整備	1haにわたる大規模公園を区画整理により整備予定		大学用地の周辺に公園を整備予定
基盤整備	バスターミナル、駐車場再整備	大泉モノレール延伸及びアクセス道路	アクセス道路(トンネル)	駅前広場、幹線道路鉄道地下化(予定)	補助幹線道路	駅前広場、幹線道路一部鉄道高架化	補助幹線道路
既存ストック	近隣商業・業務集積と研究交流機能(千里ライフサイエンスセンター)	なし	なし	商業・業務をはじめとした豊富な都市機能集積	製造業の工場群と病院、住宅	商業や住宅、学習塾等の集積	百貨店をはじめとした商業集積や業務集積など

コアPJを中心としたそれぞれの大規模都市開発における導入機能は、近年の事業環境の変化や、複合機能集積による都市魅力の高まりから、これまでの商業や業務施設中心からより多機能な集積を求める開発が増える傾向にある。

コアPJとして教育研究機能を重視したものとしては、大阪駅北地区のロボットやコピキタス関連の産業を対象とした「ナレッジキャピタル」や、彩都（国際文化公園都市）のバイオや遺伝子など生命科学に関する新技術・新産業育成を目指す「ライフサイエンスパーク」が挙げられる。

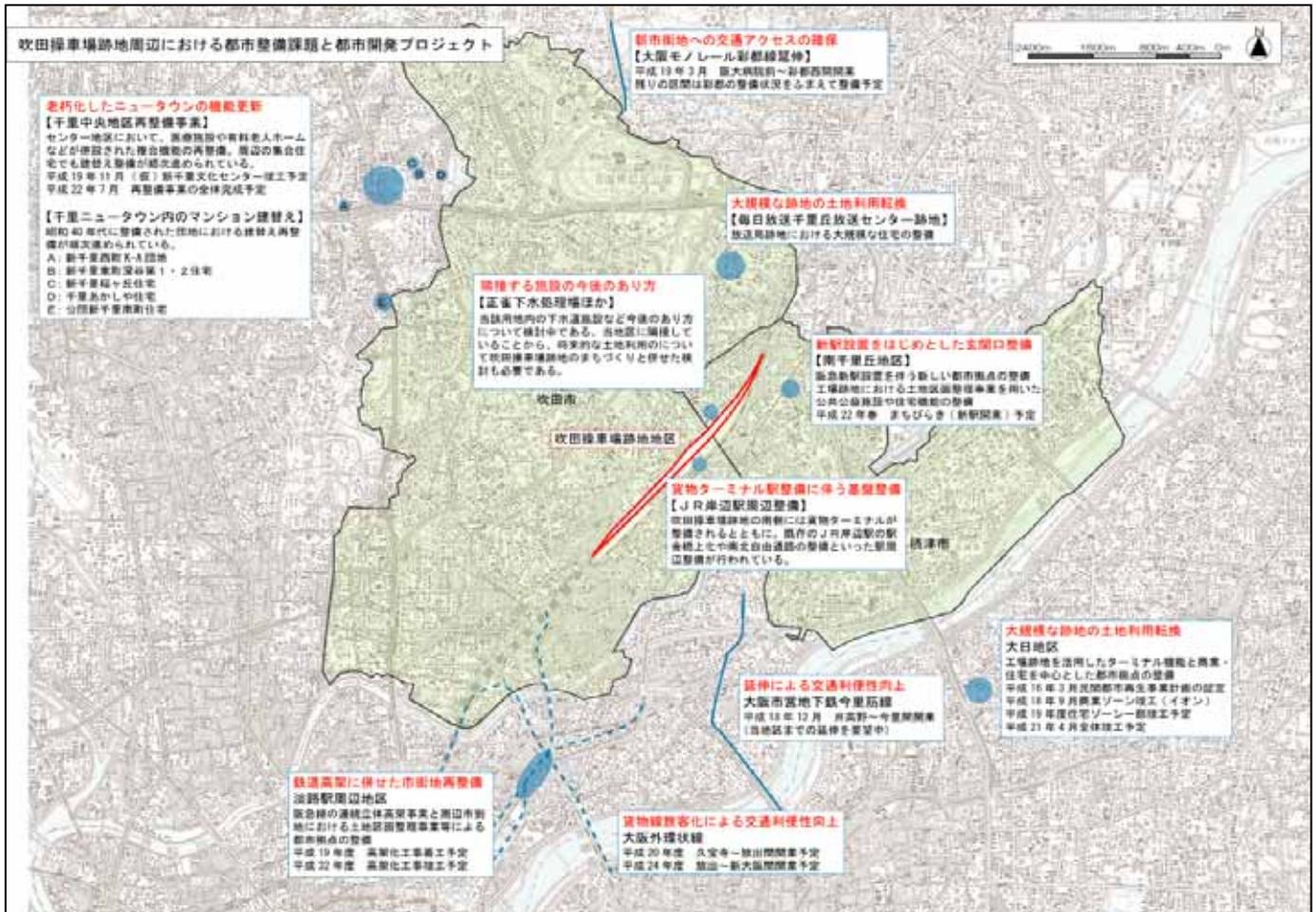
また、文化機能整備を重視した阪急西宮北口駅周辺の「芸術文化センター」や、里山住宅地といった豊富な自然環境の中での新市街地形成を目指す「水と緑の健康都市」など、様々な特色づけを行っている。

吹田操車場跡地においては、周辺が既成市街地であることや、既存の産業集積をはじめとした都市機能集積が豊富にあることから、緑や水の既存資源を生かした開発が望まれる。



## 5. 都市整備課題と都市開発プロジェクト（周辺）

吹田操車場跡地の周辺市街地が抱える都市整備課題と、それに対応する様々な都市開発プロジェクトが実施されており、その内容について以下に整理した。



周辺市街地における都市整備課題としては、交通を中心とした機能整備や鉄道高架等の機能拡張があり、淡路駅周辺地区や南千里丘地区のように、鉄道の新駅設置や高架化事業などの基盤整備事業を基本として、住宅や商業、公共公益施設の整備を図るものが挙げられる。

また、当初の市街地整備から約40年近くが経過する千里ニュータウンでは、中心部の再整備に加え、周辺部の団地における建替え更新を中心とした都市開発が行われており、これらは、今後も継続的に実施され、新たな市街地更新が進められることが考えられる。

さらに、産業構造の転換などを背景とした工業や放送局などの跡地化に伴う土地利用転換として、大日地区や毎日放送千里丘放送センター跡地といった大規模な商業施設整備や住宅整備を図るものがある。

吹田操車場跡地に隣接して、吹田市正雀下水処理場及び摂津市クリーンセンターがある。正雀下水処理場については、千里ニュータウンの下水処理を行う目的で整備されたが、下水道事業に関する維持管理や改築更新等に伴う下水処理場としてのあり方について、検討を行っている。

## ・まちづくりの基本方向

### 1. 社会経済環境への対応

吹田操車場跡地の利用計画策定に際しては、現在の社会経済ニーズを的確にとらまえ、地区の特性を活かしたまちづくりが求められている。特に以下に掲げる社会経済動向に対応することが重要である。

#### (1) 本格的な高齢社会への対応

わが国では世界でも例をみない高齢化が急速に進展しており、21世紀半ばには世界屈指の高齢社会になると予測されている。

このため、大都市周辺部におけるまとまりのある貴重な開発用地である計画地においては、鉄道をはじめとする良好な交通条件をいかながら、健康、医療、福祉などの高齢社会に対応した施設の導入を図ることが望まれている。

#### (2) 少子化時代への対応

わが国の出生率は、晩婚化や本格的な女性の社会進出などの影響を受けて、先進国の中でも低い水準を示しており、今後さらに低下していくことが予測されている。

このため、大都市に直結する鉄道駅に近接した計画地においては、少子化時代に求められる生活支援施設や教育施設などの導入を図ることが望まれている。

#### (3) 環境問題への対応

地球規模での環境問題への対応が求められている今日、計画地では環境に配慮したまちづくりはもちろんのこと、環境面における未来型まちづくりの実験の場としての取り組みを図ることが望まれている。

#### (4) 都市再生の推進

都市の活力を蘇らせ、都市再生を実現するための都市基盤整備やまちづくりの展開が全国的な課題となっており、このような状況に対して、計画地においては、周辺の既存機能集積との連携のもとで、都市の活力の再生に資する施設導入を図ることが望まれている。

#### (5) ボーダレス社会への対応

経済の国際化や情報技術の進展によって、国境や地域といった境界（ボーダー）を超えた広域的な活動が急速に進展し、いわゆるボーダレス社会が到来している。

このような状況の中で、計画地においても地域の核となる施設に加えて、良好な交通条件などを活かした広域的な施設展開を図り、まちや都市の魅力・求心性などの向上をめざしていくことが望まれている。

#### (6) 多様多才社会への対応

年齢、性別、時間、場所にとらわれない生き方が可能となり、個人の夢が実現され、再挑戦ができる「多様多才社会」の実現が求められている。

このため計画地では、このような「多様多才社会」の実現に向けて、生涯学習などに対応する文化施設や、自然とふれあい・交流できる施設などの導入を図り、人々がいきいきと活動できるまちづくりを行うことが望まれている。

#### (7) 安心・安全なまちづくり

安心して過ごすことができる安全なまちは、人々が日常生活を行う上での基本的要件であり、計画地においても多様な面で安心・安全に向けた施策を展開していくことが求められている。

具体的には、バリアフリーのまちづくりはもとより、地震をはじめとする災害への対応や、近年急増している犯罪の予防・抑止に向けた防犯システムの導入などを着実に実施していくことが望まれている。

#### (8) 質の高い景観形成

潤いのある豊かな生活環境の創造及び個性的で活力ある地域社会の実現を図るために、良好な景観を形成することが求められており、計画地においても、次の100年を見据えた空間のデザイン等、質の高い景観を形成することが望まれている。

## 2. 計画地の特性を活かしたまちづくり

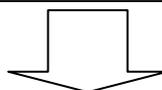
吹田操車場跡地においては、吹田・摂津両市の既存ストックなどを活用しながら、吹田操車場跡地の特性を活かした個性と魅力あるまちづくりをめざしていく。

### (1) 緑豊かなまちづくりをめざす

#### 計画地の特性

吹田操車場跡地の現状は緑が少ない状況であるが、千里丘陵や万博記念公園、淀川水系の河川など、緑と水に関する資源は豊富に存在している。

21世紀のまちづくりにおいては、環境改善への具体的な取り組みなど、環境への配慮がより一層求められており、計画地の南側には吹田貨物ターミナル駅（仮称）が立地するため、同駅との緩衝空間として、「緑の遊歩道」の設置が予定されている。



#### まちづくりの考え方

- ・まちづくりにおいてまとまりある緑を配置し、緑と水につつまれた「地域における緑の拠点」となるまちの形成をめざす。
- ・吹田貨物ターミナル駅（仮称）との境界部に帯状に「緑の遊歩道」（緑地帯や遊歩道）を設置し、市民のうるおいや憩い、健康増進の場として活用するとともに、大阪都市圏においても稀な鉄道沿線での緑の景観を創出する。

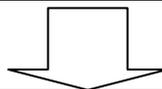
### (2) 計画地の特性をいかす

#### 計画地の特性

計画地は JR 東海道本線の 3 つの駅に近接し、大阪・新大阪の両駅から 10 分前後、京都、神戸から 30 分前後という交通条件を有する。

さらに、平成 18 年 12 月に開業した大阪市営地下鉄今里筋線を、井高野駅から JR 岸辺駅・阪急正雀駅付近まで延伸するよう要望しており、これが実現すると吹田市・摂津市における一大鉄道結節点となる。

また、計画地は国土軸に位置し、かつて「東洋一の操車場」と呼ばれ、日本の経済を支える物流拠点としての役割を担ってきた。現在は操車場としての役割を終え、北大阪の成熟した既成市街地内において、まちづくりに活用できる最後の広大な用地である。しかしながら、その形状は、延長が 3km、用地幅が約 150m という非常に細長い用地である。



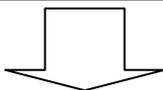
#### まちづくりの考え方

- ・この交通至便性を最大限活用し、関西圏等を対象とした施設機能の導入についても検討する。
- ・通常のまちづくりの視点で見れば、細長い計画地の形状はまとまりのある土地利用や効率的な基盤施設の配置において不利な条件であるが、この特徴的な地形を最大限に活用し、緑の遊歩道や建物など都市景観や都市機能において個性あるまちづくりを展開する。
- ・さらに、前述のように計画地は鉄道駅に直結するまちであるとともに、その成り立ち自体が操車場跡地である歴史を有しており、鉄道をはじめとする交通を切り口にした機能導入の可能性についても検討を行う。

### (3) 周辺の機能集積をいかす

#### 計画地の特性

計画地周辺の機能集積の特徴として、高度教育機関と高度医療機関があげられる。高度教育機関としては、大阪大学をはじめとして関西大学や大阪学院大学、大阪人間科学大学など全国有数の集積を誇っている。これらの大学では、従来の研究領域に加え学際的な新たな領域、さらには今日的な課題に対して進化していくことが求められており、その時々々の社会経済状況に応じて新たな機能・施設展開が必要となっている。また、高度医療機関については、大阪大学附属病院や国立循環器病センターなどが周辺に集積しており、高度教育機関同様に常に新たな展開が期待される分野である。



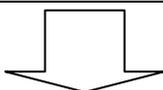
#### まちづくりの考え方

- ・このような周辺機能集積をいかして、計画地においてはこれら研究・教育や医療の新しい核となる施設誘致を検討するとともに、周辺での機能集積をサポートする関連機能・施設の導入をめざしていく。

### (4) 周辺地域の都市開発とのネットワーク形成

#### 計画地の特性

計画地の周辺地域には、大阪駅北地区（北ヤード）や彩都（国際文化公園都市）をはじめとした大規模都市開発プロジェクトが実施中であり、それぞれ、ナレッジキャピタル（大阪駅北地区）、ライフサイエンスパーク（彩都）などをコアPJとして、特徴的な開発を行っている。近年の都市開発においては、こうした特徴的なコンセプトに基づく都市機能の導入や、機能複合により都市魅力を高め、持続的に維持運営していくまちづくりが求められている。



#### まちづくりの考え方

- ・計画地においては、これら先行する都市開発の有する機能との連携にネットワーク化を図るとともに、これらの地区には見られない独自性のある都市開発を行うことにより、北大阪地域における拠点形成を図る。

## (5) 周辺市街地のまちづくりとの連携

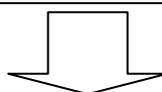
### 計画地の特性

計画地の南側では貨物ターミナル駅の整備に加えて、ＪＲ岸辺駅の橋上化や南北自由通路の整備といった、駅周辺整備が予定されている。

また、計画地の摂津市域に面する吹田市正雀下水処理場及び摂津市クリーンセンターについては、今後のあり方について検討中である。

さらに、周辺では鉄道高架や新駅設置といった基盤整備や、工場跡地等における土地利用転換、千里ニュータウンの機能更新など様々な都市開発が行われている。

このため、計画地に隣接する地区における整備内容との連携を図るとともに、周辺部における都市開発の整備内容との調整や連携など、地域における一体となったまちづくりを行う必要がある。



### まちづくりの考え方

・計画地に隣接して整備するＪＲ岸辺駅橋上駅舎や南北自由通路等の関連施設と一体的な計画に基づく施設整備を行う。

・吹田市正雀下水処理場及び摂津市クリーンセンターの用地については、今後、仮に機能再編が行われた場合の土地利用のあり方について、計画地との整合をはかる必要がある。

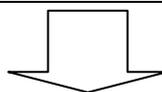
・周辺市街地の住環境の保全向上に寄与する都市景観の形成をめざす。

## (6) 人やまちが自己成長できるまちづくりをめざす

### 計画地の特性

大規模都市開発の特徴として、瞬間的に全ての整備を行ってしまうことにより、整備後の可変性や柔軟性が十分でないために、一定の期間が経過した後の再活性化が課題となっている。また、様々な都市開発が各地で行われる中で、地域や都市の個性の創出やまちを使う人（市民や来街者）のニーズにきめ細かく対応することが求められている。

計画地における個性になりうる特性としては、2市にまたがる約3kmにわたる細長い形状の用地であることや、隣接して関連整備の可能性が期待できるリザーブ用地（正雀下水処理場など）が存在すること、京阪神圏に30分前後で到達できる利便性の良さなどがある。



### まちづくりの考え方

・細長い地形を活かし、地域全体が緑に覆われるような快適性の高いまちを形成し、そこに立地特性に応じたそれぞれの立地機能が相互に連携しあうまちづくりを検討する。

・リザーブ用地といった、段階的な整備が可能なまちづくりの考え方を取り入れ、時代状況やここで生活する人のニーズにあわせたまちづくりを検討する。

・周辺の都市機能とも連携し、人の成長過程にあわせて、まちが一緒になってサポートや成長していくことが可能なまちづくりをめざす。

### 3. 望まれる都市像

社会経済環境や地域特性、上位計画等を踏まえ、吹田操車場跡地に望まれる都市像を示す。

#### (1) 次の100年を見据えた未来型都市モデルをめざす

かつて、「東洋一の操車場のあるまち」と呼ばれ、時代をけん引する役割を果たした歴史を踏まえ、次の100年を見据えた都市及び環境づくりを行い、新たな都市のモデルとなるまちづくりをめざす。都市生活において自然環境との日常的共生を図り、地域経済、文化及び福祉が共存調和する都市をめざす。

#### (2) 未来志向の新しい北摂文化の創造をめざす

これからの市民は、高まりつつある情報伝達技術を背景に、様々なコミュニケーションや豊かな感受性を持ちながら、新しい生活文化や地域コミュニティを創造していく必要がある。

まちづくりにはグローバル文化と地域文化の適切な融合が不可欠である。現状の北摂文化という地力を核に、遠隔地域の人々を引きつける未来志向の新しい北摂文化の創造をめざす。

#### (3) 北大阪の環境シンボルとなる豊かな緑と安心・安全な環境づくりをめざす

計画地全体が公園とを感じる様な豊かな緑に包まれた拠点形成を図ることにより、北大阪地域における環境シンボルとして内外に発信し、ユニバーサルデザインにより誰もが快適に利用できる都市をめざすとともに、「豊かな緑」と「防災防犯性」の両立した環境づくりをめざす。

#### (4) 五感で楽しむ変化に富んだ緑の空間形成をめざす

長大な計画地の形状を活かし、東西方向への緑の連続性の確保と、各ゾーンの特色を活かした、変化に富んだ緑の空間を連担させることにより、「見る」「触れる」「食す」など五感で楽しみながら、歩ける歩行者空間や施設と良好な景観の形成をめざす。

#### (5) 北大阪をけん引する高度な機能集積と高質な環境形成をめざす

府域レベルの上位計画、交通至便な立地特性、広大な用地及び周辺の高高度医療・教育機能の集積状況により、北大阪地域におけるまちづくりの発展・けん引に貢献する新たな都市拠点として位置づけ、高度な機能の集積と質の高い環境を形成することにより、周辺市街地への波及をめざす。

#### (6) 市民の健康を育む疾病予防的健康増進施設の立地をめざす

加速する高齢化により、病気や介護の負担が極めて大きな社会になると考えられ、病気や介護に対する予防的取組みが求められる。市民の健康づくりをサポートする健康増進機能を中心にした拠点機能の形成をめざす。

#### (7) 研究教育機能と産学官プラス市民による協働交流施設の立地をめざす

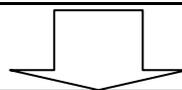
計画地周辺には、大阪大学や関西大学をはじめとした大学や、国立民族学博物館等の高度教育研究機関が集積立地し、これらを支える支援機能や高度化・専門化する関連機能の受け皿が求められている。研究教育機能の導入と産学官プラス市民による協働交流拠点の形成をめざす。

## 4. まちづくり基本方針

前章記述の上位計画、まちづくりの方向性より「まちづくり基本方針」を以下のように設定する。

### 吹田操車場跡地のまちづくり基本方針の設定

行政施策との 整合性の確保	都市 計画	(大阪府)良好な市街地の形成を図る「都市拠点」 (吹田市)東部拠点形成 (摂津市)新たな都市拠点形成
	自然 環境	(大阪府)循環型社会を目指した環境都市づくり、中央環状緑地群の形成 (吹田市)川の辺緑地拠点 (摂津市)地域を特徴づける緑地の配置
-1 社会経済動向 への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本格的な高齢社会への対応（健康・医療・福祉施設等へのニーズ増大）</li> <li>・少子化時代への対応（生活支援施設の必要性や、私立大学における一貫教育施設整備など）</li> <li>・環境問題への対応</li> <li>・都市再生の推進</li> <li>・ボーダレス社会への対応</li> <li>・多様多才社会への対応</li> <li>・安心・安全なまちづくり</li> <li>・質の高い景観形成</li> </ul>	
-2 計画地の特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の分布は少ないものの、「中央環状緑地群」に位置し、万博記念公園や千里丘陵、正雀川や安威川等との緑と水のネットワークの形成の可能性</li> <li>・市内だけでなく、広域からの集客を図ることが可能な立地環境</li> <li>・大阪市営地下鉄今里筋線の計画地までの延伸を要望</li> <li>・細長い用地</li> <li>・千里ニュータウンや万博記念公園をはじめとする計画地周辺での高度な教育研究施設や医療施設、環境施設等の集積</li> <li>・計画地周辺部におけるライフサイエンス（彩都）やナレッジキャピタル（大阪駅北地区）など、地域特性を出した大規模都市開発の進展</li> <li>・同時期に整備される貨物ターミナル駅をはじめ、JR 岸辺駅の橋上化や南北自由通路の整備等の駅周辺整備事業</li> <li>・隣接する正雀下水処理場及びクリーンセンターの機能再編の可能性</li> </ul>	
-3 望まれる都市像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の100年を見据えた未来型都市モデルをめざす</li> <li>・未来志向の新しい北摂文化の創造をめざす</li> <li>・北大阪の環境シンボルとなる豊かな緑と安心・安全な環境づくりをめざす</li> <li>・五感で楽しむ変化に富んだ緑の空間形成をめざす</li> <li>・北大阪をけん引する高度な機能集積と高質な環境形成をめざす</li> <li>・市民の健康を育む疾病予防的健康増進施設の立地をめざす</li> <li>・研究教育機能と産学官プラス市民による協働交流施設の立地をめざす</li> </ul>	



まちづくり 基本方針	「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」の創出
---------------	-------------------------

都市機能と都市環境・都市景観の導入を下記の方針によりはかるものとする。

## 導入機能及び環境形成誘導方針

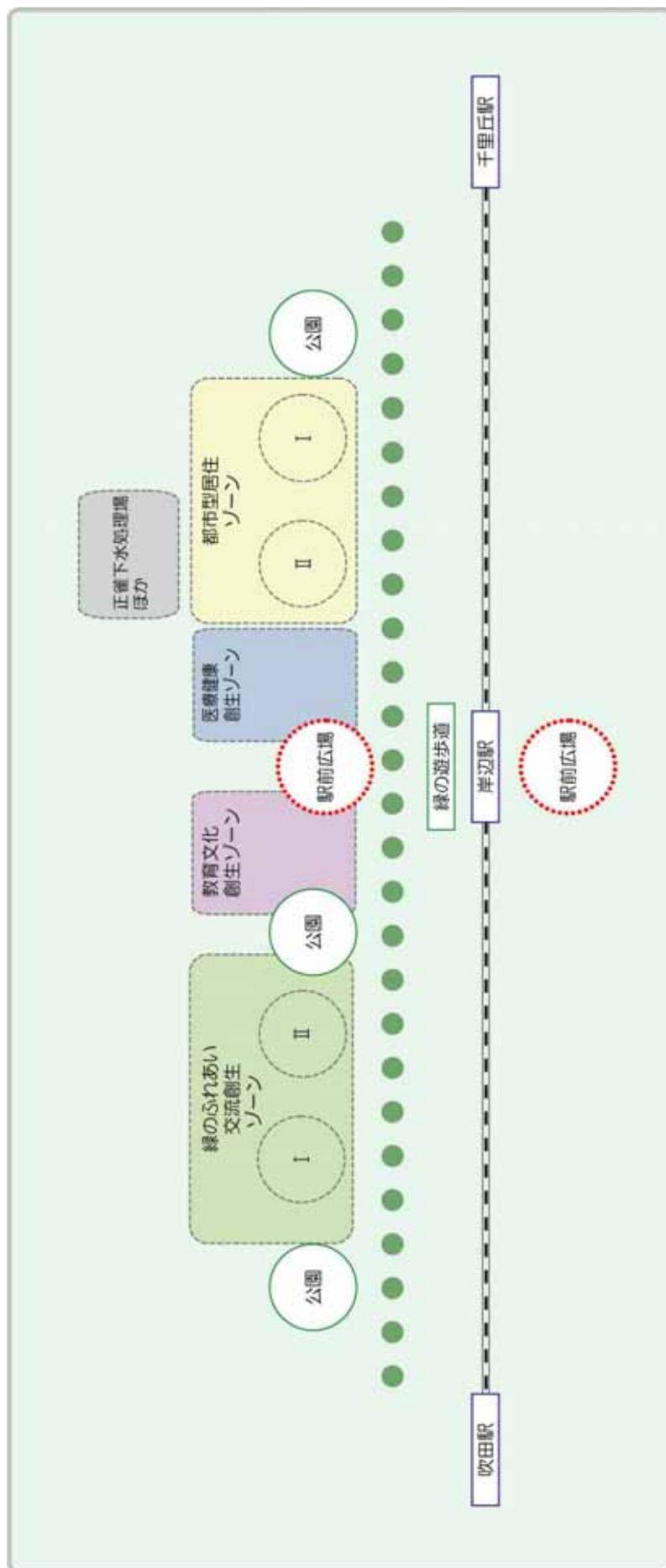
<p>まちづくり 基本方針</p>	<p>「<b>緑と水につつまれた健康・教育創生拠点</b>」</p>	
	<p>都市機能</p>	<p>都市環境 都市景観</p>
<p>誘導方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康づくり都市宣言」「<b>健康おおさか21</b>」の実現に向けた疾病予防的な医療・健康増進施設の導入</li> <li>・<b>市民だけでなく関西圏からの利用者も訪れるような高度な拠点施設機能の導入</b></li> <li>・総合的な医療サポート施設群の導入</li> <li>・地域の交流や文化を育むコミュニティ施設、文化施設の導入</li> <li>・研究・研修施設、まちににぎわいをもたらす教育施設の導入</li> <li>・産学官プラス市民によるコラボレーションを支援する交流機能の導入</li> <li>・防災機能を有した公園の導入</li> <li>・緑豊かな居住・生活支援施設の導入</li> <li>・暮らしを支える生活利便施設の導入</li> <li>・緑とふれあうことのできる交流施設の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の遊歩道及び公園、敷地内植栽による緑のネットワークの形成</li> <li>・里山の再生等環境シンボルの形成</li> <li>・環境教育と環境意識啓発の場の提供</li> <li>・良好な環境と景観形成による都市イメージの向上</li> <li>・駅前の顔としての印象的景観の形成</li> <li>・<b>北摂山系や千里丘陵をはじめとした緑や自然資源と調和し、市街地における緑を中心とした上質な都市デザインの実現</b></li> <li>・<b>市民意見も踏まえたコンセプトに基づく都市デザインを調整し実現していく組織づくり</b></li> <li>・<b>持続可能性があり、自己成長しうるまちにするためのタウンマネジメント組織によるまちの管理運営</b></li> </ul>

## ・まちづくりの理念

導入機能及び環境形成誘導方針を基に都市構造及びゾーニングを以下のとおり設定する。

前 文

## まちづくり概念図



緑と水につつまれた健康・教育創生拠点

## 導入機能誘導方針

<b>緑のふれあい交流創生ゾーン( )</b> 新たに生み出すまとまった緑の空間	緑とふれあうことのできる交流施設の導入
<b>緑のふれあい交流創生ゾーン( )</b> 緑を中心とした市民の生活交流空間	緑豊かな居住・生活支援施設の導入 緑とふれあうことのできる交流施設の導入
<b>教育文化創生ゾーン</b> だれでもいつでも学べる教育・研究の中核的な拠点	研究・研修施設、まちににぎわいをもたらす教育施設の導入 産学官プラス市民によるコラボレーションを支援する交流機能の導入 地域の交流や文化を育むコミュニティ施設、文化施設の導入
<b>医療健康創生ゾーン</b> 市民の健康をサポートする中核的な拠点	疾病予防的な医療・健康増進施設の導入 総合的な医療サポート施設群の導入 緑豊かな居住・生活支援施設の導入
<b>都市型居住ゾーン( )</b> 憩いと安らぎの生活交流空間	防災機能を有した公園の導入 市民の憩いの場となる交流施設の導入
<b>都市型居住ゾーン( )</b> 駅近接の利便性を活かした都市型居住空間	緑豊かな都市型居住施設の導入 育児・福祉などの生活支援施設の導入 暮らしを支える生活利便施設の導入
<b>緑の遊歩道</b>	豊かでボリューム感のある緑の連続空間 楽しみながら距離を感じさせない健康増進空間 まちの持つコンセプトを周辺地域に発信する
<b>JR 岸辺駅前の整備</b>	まちの顔となる北駅前広場の整備 まちのイメージを表現する駅周辺部の景観形成 緑のネットワークの中心となる緑豊かな空間整備 JR 岸辺駅の橋上化と南北自由通路の整備 南駅前広場の改修

## 環境形成誘導方針

緑の遊歩道及び公園、敷地内植栽による緑のネットワーク形成
里山の再生等環境シンボルの形成
環境教育と環境意識啓発の場の提供
良好な環境と景観形成による都市イメージの向上
駅前の顔としての印象的景観の形成
周辺市街地との調和に配慮した都市デザインの実現

## 章 吹田操車場跡地まちづくり促進協議会での検討内容

### 1 . 正雀下水処理場、クリーンセンターの今後のあり方

## 奥付

吹田操車場跡地まちづくり促進協議会 関係者会議  
主な意見

日 時：平成 19 年（2007 年）2 月 9 日（金） 10：00 ～ 12：00

場 所：吹田市役所

出席委員：吉岡委員、中村委員（代理出席）、山口委員（代理出席）、荻野委員（代理出席）、  
島田委員（代理出席）

< 当会議開催の位置づけ >

第 2 回まちづくり促進協議会では、コンペに関する事業関係機関の関わり方について、懸念する意見が出された。今後、当地区のまちづくりにおいては、エントリーコンペ及び事業コンペの開催を予定しているが、その内容や運営方法について、事業関係機関からの見解を伺いたいとの考えから、関係する委員にお集まりいただいた。

< 委員からの意見 >

- ・事業スケジュールから考えても、建物整備までには時間があり、現時点で具体的な事業提案を求めることは難しいのではないかと。
- ・平成 19 年度に行うコンペに関しては、アイデア募集とプロジェクト PR を主体にした内容にすべきである。また、コンペ以外にも企業へのヒアリングやアンケート調査など色々な手法による調査を行うことも考えられる。
- ・敷地単位ではなく、一体的な事業者選定を行う方がまちづくりの統一感は図りやすいと思う。
- ・ニュータウンなどのマンション建替えにおいては、余剰容積があったことが、建替え促進の原動力となっていることもあり、今回の開発で全ての容積を使い切るのではなく、将来的な建替え対応にも配慮したまちづくりを考える必要があると思う。
- ・開発時点において、権利者意向とまちづくりビジョンは対立しやすいことも多い。そのため、この促進協議会や計画委員会にて策定するまちづくりビジョンを踏襲したまちづくりを実現させて欲しい。
- ・事業コンペの実行組織に民間企業が入っている場合、その企業のグループ企業であっても、コンプライアンス等の問題から、事業コンペには応募できなくなる。
- ・コンペの内容については、事業主体と権利者によって定めるものであり、コンペに応募する企業との独立性は確保すべきである。
- ・促進協議会ではコンペ内容に関する議論を行うのではなく、まちづくりの考え方やまちづくり素案作成に関する議論を中心にしていくべきではないかと思う。
- ・会議における議論のテーマをもっと絞って運営して欲しい。

< 結論 >

事業コンペ実施機関と促進協議会との間の関係は、一切、切り離しておく必要がある。

吹田操車場跡地まちづくり促進協議会 関係者会議  
主な意見

日 時：平成 19 年（2007 年）2 月 14 日（水） 11：00 ～ 12：15

場 所：吹田市文化会館メイシアター 第 2 会議室

出席委員：夜久会長、和泉副会長

< 当会議開催の位置づけ >

第 2 回まちづくり促進協議会（以後、促進協議会とする）では、基盤整備や都市計画に関する検討の進め方が課題とされ、今後のコンペに関する事業関係機関の関わり方について懸念する意見が出された。これらの検討課題については、会長及び副会長に取扱いを一任されている。また、促進協議会終了後、基盤整備や都市計画に関しては行政、コンペに関しては事業関係機関を対象とした関係者会議を開催している。

当会議では、促進協議会の会長及び副会長に対して、促進協議会以後の経過報告と、まちづくり計画委員会に提出する促進協議会からの意見についての内容確認を行った。

< 会長・副会長からの意見 >

1. 促進協議会の運営・議論の内容についての意見

- ・時間が限られていることもあり、内容を絞った議論をして欲しい。事務局で議案について絞り込んでもらって、我々や委員全員に対して、議案についての事前告知をお願いしたい。
- ・まちづくりの計画内容については、行政を中心にまとめて案を出してもらった方が、我々としては議論がしやすいと思う。
- ・まちづくり案ができてこない、委員からもアイデアが出せないのではないかな。
- ・前回の促進協議会及び関係者会議での意見内容を聞いていると、都市計画や基盤整備に関する議論は行政間の協議・連携により検討を進めることと、コンペに関する内容については、事業主体や権利者など実行組織を中心とした議論によるものとして、促進協議会とは別に行っていくべきであるということが整理されたと思う。
- ・公共基盤施設の整備内容や都市計画については、国や大阪府との行政間連絡会議でしっかりと進めていく。具体的な内容やスケジュールについて行政間で明らかにできるように検討を進める。

2. 正雀下水処理場の取り扱いについての意見

- ・正雀下水処理場については、計画地内に影響がある施設でもあり、この吹田操車場跡地の事業に合わせるか、先行する位の気持ちで事業を進める必要があるのではないかな。
- ・広域行政の視点からも、吹田操車場跡地ならびに正雀下水処理場用地の土地利用方策についても、検討していく必要があり、それが 21 世紀型のまちづくりにもなるのではないかな。
- ・次回の計画委員会において、今回の「吹田操車場跡地 まちづくり全体構想（素案）」の内容に正雀下水処理場用地の取り扱いについて、含めたものとするのかどうかについて議論をして欲しいと思う。

< 結論 >

促進協議会は基盤整備等の条件と整合を取りながら、主に土地利用について議論していく。

議論のテーマを絞って進める。

課題の内容により、ワーキンググループを設置する。

事業コンペ実施主体と促進協議会とは切り離す。

## 第2回吹田操車場跡地まちづくり計画委員会 主な意見

### 1. 吹田操車場跡地地区の位置づけに関する意見

- ・全体構想に出てくる市民は、吹田市及び摂津市市民を対象にしていると思うが、当地区の立地や周辺の立地している高度な機能集積などを踏まえれば、もう少し広域を対象とした施設展開やまちづくりも可能であり、それらを考慮した内容にすれば、京阪神大都市圏の特色ある地域になると思う。
- ・新大阪駅から見れば、大阪も岸辺も時間的には変わらない。そのような立地を見て土地利用を考える中で、広域的な戦略性のある機能導入を図り、梅田北ヤードなどとの先行開発との差別化を図る視点と、21世紀の環境モデルにする視点についての基本方針が必要ではないかと思う。

### 2. 吹田操車場跡地のまちづくりの全体像に関する意見

- ・都市像に至るまでの項目の中で、水や川について、当地区の地域特性として触れられていない。もう少し丁寧に整理をすると判りやすくなると思う。
- ・構想の前段部分に、水について3つの意味を持たせて記述すればよいと思う。例えば、20世紀の地域の発展を支えたという貢献の視点と、環境共生として循環利用を進める視点、環境回復を目指す視点などが考えられる。
- ・まちづくりにおけるハードの議論をする時には、将来の日本人がどのようにあるべきか、ということについての議論が必要である。

### 3. まちづくり基本方針に関する意見

- ・『緑と水につつまれた健康・教育創生拠点』の創出というまちづくりの基本方針は素晴らしいと思う。
- ・「緑と水」の内容について、どこでも挙げられている程度の内容なのか、緑を中心として五感で楽しめるような水を引き込むのか、前段の検討内容の中で触れて欲しい。
- ・コンセプトとしては、緑や水を活かす中でも、4つのゾーンを束ねていくとか連ねていくとかいうものが重要で、ただ並べただけでは、リニアな感じが実現できないように思う。
- ・北摂の文化も重要な内容であり、もっと上位に取り上げて考えるべきだと思う。

### 4. 周辺地域との関係性に関する意見

- ・まちづくり基本方針の中における正雀下水処理場に関する内容について、位置づけや今後の展開内容についての議論が必要である。
- ・正雀下水処理場は、当地区に隣接して立地しているため、この用地の取り扱いについて、しっかり詰めておかないと、当地区の計画内容にも大きく影響を及ぼす可能性がある。
- ・下水処理場を廃止する場合の技術的課題（安全性の確保や維持管理など）への対応策について、平成19年度から、事務方による協議が始まるので、その内容に基づいて、取り扱いについても決まってくるものと考えられる。また、土地利用に関する基本的な方針については、この計画委員会で検討するのが相応しいと思う。
- ・正雀下水処理場を中央処理場に移管できたと仮定した場合に、中央処理場の高度処理水を逆に利用

して、跡地となる正雀下水処理場から水再生の水循環の発想で、きれいな水を流せるのではないかと考えている。

## 5. 基盤整備に関する意見

- ・道路や駅前広場といった基盤施設は、こうした街のコンセプトを具現化する場合に最も重要な場所であり、密接な関係を持ちながら進めて欲しいと思う。これまでの構想案で示されているJRの駅舎等の施設についても、もう少し、改善をして欲しいと思う部分もある。
- ・基盤整備や貨物駅整備などスケジュールが厳しい中ではあるが、全体的なコンセプトに基づくまちづくりを行う上では、最初に来る基盤施設にその考え方が最も反映されている必要があり、構想や議論の内容をできるだけ盛り込んで欲しい。

## 6. 緑の整備に関する意見

- ・緑を設けるにしても、これからは質が問われる時代だと思う。日本の緑も随分確保されてきたが、本当に質の高いデザインができていないかという疑問に思う。
- ・緑に関して、「周辺市街地との調和に配慮した」というようなありきたりの表現に留まらず、「もっと質の高いデザインを目指す」程度の表現をして欲しいと思うし、その覚悟を持って欲しい。
- ・当地区の東西にリニアで細長い地形は、非常に特徴的なものであり、この地形を踏まえ、緑と水を活かすことでアイデンティティの高い空間ができるはずである。
- ・緑についても、北摂の緑と都心の緑は大きく性格が異なっており、この場所に相応しい緑の考え方について、考える必要がある。

## 7. 公園の整備に関する意見

- ・公園が本当に良いものなのかどうかについて考え、今の日本の公園みたいにするのか、海外のように市民がデッキチェアを持ってきて読書を楽しむような場所にするのか、公園の内容についても議論する必要がある。
- ・公園についても、この街が近未来のまちづくりを志向していることから、現在の公園の良い面、悪い面を踏まえてここで再検討、再構築していく必要がある。
- ・公園もただ緑があるだけでは、人気もなく怖い空間になってしまう。管理面の工夫として、例えば、人の目が集まるようなカフェを設けることにより、怖くない公園づくりが可能となる。
- ・現在の規制緩和の流れの中で、公園内の民間施設導入や、公園の市民による自主管理等の動きも出ている。
- ・将来的にこのまちをどのように管理運営していくのかという、タウンマネジメントの発想を取り込んで、公園整備のあり方についてもつくり上げていくことができると思う。

## 8. 地域資源の活用に関する意見

- ・既存ストックとしての循環器病センターや資源リサイクルセンター等の施設を地域資源として捉え、これらの蓄積の上に、当地区の都市機能によって、それぞれのテーマを深めていくことが、まちづくりの理念としても重要であり、北摂文化としての醸成につながると思う。

## 9. まちのつくり方に関する意見

- ・形といった表層的なものだけに留まらず、ものを具現化するための考え方こそがデザインであり、パークタウン構想のような全体を貫く最終的に形になるまで連続するコンセプトがデザインである。計画地では、デザインを継続的に見ていくシステムや組織を作っていて、検証しながら最後まで実現していくことも考えて欲しいと思う。そして、そうした決意を全体構想の中に入れてもらえば良いと思う。
- ・リザーブ用地という考え方は重要だと思う。全部をきちんと作りこんでしまうと、変わることができないので、リザーブ用地を設けて調整できるまちづくりを行うことにより、将来的に自己成長できる街にすることも必要である。
- ・千里ニュータウンなど従来の都市開発においても、30年程度で更新を行っていることから、まちづくり計画の中にまちづくり期間としての時間軸を盛り込むべきだと思う。
- ・公園の作り方に関する過去の議事要旨の中でも、ハードとソフトを分けた表現が見られた。世間一般にもこうした議論が多いが、計画地のまちづくりにおいては、ハードとソフトを一体的なものとして議論して欲しい。

## 10. エントリーコンペ・事業スケジュールに関する意見

- ・梅田北ヤードでは、まず国際コンペを行って、いろいろなところから意見を募り、コンペ案を反映して全体構想の策定を行い、その後に基本計画策定を行っている。
- ・先に計画を全部決めてしまって、後はPRだけの事業コンペだと言われても、事業者も力が入らないと思うので、このような構想策定に並行して、事業計画コンペを行い、民間の意見も実現可能性のある提案をしてもらうことで、双方の意見が含まれた基本構想、基本計画ができると思う。

## 吹田操車場跡地まちづくり促進協議会構成員名簿 新旧対照表

新			旧		
区分	所属	氏名	区分	所属	氏名
委員	吹田商工会議所 会頭	夜久 宥	委員	吹田商工会議所 会頭	夜久 宥
	吹田市医師会 会長	小谷 泰		吹田市医師会 会長	小谷 泰
	摂津市商工会 会長	和泉 慎次		摂津市商工会 会長	和泉 慎次
	摂津市医師会 会長	<u>黒本 成人</u>		摂津市医師会 会長	<u>下野 英世</u>
	関西電力 支配人	中村 實夫		関西電力 支配人	中村 實夫
	大阪ガス近畿圏部 部長	吉岡 亨		大阪ガス近畿圏部 部長	吉岡 亨
	NTT 西日本第1ソリューション営業部 部長	山口 泰範		NTT 西日本第1ソリューション営業部 部長	山口 泰範
	JR 西日本総合企画本部 部長	荻野 浩平		JR 西日本総合企画本部 部長	荻野 浩平
	阪急電鉄 常務取締役	島田 隆史		阪急電鉄 常務取締役	島田 隆史
	毎日放送 常務取締役	上田 修		毎日放送 常務取締役	上田 修
	国土交通省近畿地方整備局建政部 部長	坂 真哉		国土交通省近畿地方整備局建政部 部長	坂 真哉
	大阪府住宅まちづくり部 理事	<u>沢田 吉和</u>		大阪府住宅まちづくり部 理事	<u>井上 章</u>
	<u>吹田市副市長</u>	富田 雄二		<u>吹田市助役</u>	富田 雄二
	<u>摂津市副市長</u>	小野 吉孝		<u>摂津市助役</u>	小野 吉孝
アドバイザー	大阪大学大学院医学系研究科 教授	武田 裕	アドバイザー	大阪大学大学院医学系研究科 教授	武田 裕
	<u>関西大学環境都市工学部 教授</u>	楠見 晴重		<u>関西大学工学部 教授</u>	楠見 晴重
オブザーバー	都市再生機構西日本支社 副支社長	桑原 憲雄	オブザーバー	都市再生機構西日本支社 副支社長	桑原 憲雄
	鉄道建設・運輸施設整備支援機構 国鉄清算事業本部西日本支社 次長	高木 良範		鉄道建設・運輸施設整備支援機構 国鉄清算事業本部西日本支社 次長	高木 良範
	日本貨物鉄道関西支社 副支社長	萩原 正之		日本貨物鉄道関西支社 副支社長	萩原 正之